３Ｒ 活動先進事例集 2016

～平成28年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞者の取組～

平成29年３月

環 境 省

大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
企画課循環型社会推進室

はじめに

「循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰」は、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の３Ｒ（スリー・アール）の適切な推進等、先駆的又は独創的な取組により循環型社会の形成について顕著な功績があった個人、団体、企業の功績をたたえるとともに、もって循環型社会の形成を促進するため、平成１８年度に環境省によって設けられました。

本『３Ｒ活動先進事例集』は、平成２８年度に「循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰」を受賞した企業７件、団体１１件及び個人１件の活動の概要を事例集として取りまとめたものです。

本事例集が、３Ｒの活動に取り組む全国の企業、ＮＧＯ等団体・市民、地方自治体等の皆様の今後の御活動の御参考となれば幸いです。

平成２９年３月

環境省
大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
企画課循環型社会推進室

平成28年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞者

部門	都道府県	氏名等	功績内容	ページ
企業	北海道	株式会社きのとや	平成 17 年より搬入･搬出作業用の段ボール箱のコンテナへの切替えを開始し、以降、容器びんの回収、食品残さの再資源化に取り組んできた。さらに、平成 24 年にはお菓子の切れ端を活用した製品の開発･販売を開始するなど、ゼロ・エミッションに向けた取組を展開している。	2
企業	北海道	生活クラブ生活協同組合　北海道	全国の生活クラブ生協と連携し、生産者・地域の資源回収業者の協力のもと、平成 5 年に独自のびん再使用システムを構築し、回収率 90%を目指している。平成 26 年度の回収実績は 76.9%となった。	4
企業	岩手	株式会社エヌエスオカムラ	金属製品の塗装に必須の前処理工程では、スラッジの発生が不可避であったが、処理工程の見直しや技術開発により年間 15 トン発生していたスラッジをゼロにするとともに、平成 27 年度には、工場全体の熱原単位の前年度比 16%削減に成功した。	6
企業	東京都	サントリー食品インターナショナル株式会社	ペットボトルの環境負荷低減のために、３Ｒを進化させた「２Ｒ＋Ｂ」（リデュース、リサイクル、バイオ）戦略に基づき開発･設計に取組み、平成 28 年には世界で初めて飲料用ペットボトルに植物由来原料 30%を使用したキャップを導入した。	8
企業	東京都	森永乳業株式会社東京工場	平成 25 年に微細な気泡を排水に吹き込むファインバブル装置を導入して、平成 27 年度には汚泥発生量を平成 24 年度比約 80%削減するとともに、平成 25 年よりこれまで食品廃棄物として処理してきた豆腐おからを乳酸発酵させサイレージ飼料を製造し、酪農家に全量販売するようになった。また、この飼料を食べた牛の乳を工場で受け入れて乳製品の原料としている。	10
企業	長野	株式会社星野リゾート軽井沢事業所	ホテル事業による周辺環境への負荷を最小限にとどめながら、最高の顧客満足度と利益を生み出すことを企業ビジョンとし、平成 12 年からゼロ・エミッションに取り組む。平成 23 年 11 月にはホテル業界初のゼロ・エミッションを達成した。	12
企業	岐阜	株式会社りゅういき	下水汚泥の土質固化材へのリサイクルを異業種交流により進め、平成 9 年に岐阜県リサイクル認定製品の第 1 号となった。平成 19 年度からは、下水汚泥のバイオマス燃料化に取り組むなど、下水汚泥の完全リサイクル化の取組を実施している。	14
団体	埼玉	志木市くらしの会	昭和 50 年から資源の有効活用、生産者・販売者・消費者の相互の意思疎通をテーマにし、資源の有効活用法を提案する消費生活展やリサイクル講習会を実施。また、夏休み子ども消費者教室の開催など地道な活動を続けている。	18

団体	石川	石川県リサイクル認定製品取得企業連絡協議会	平成 13 年から県のエコ・リサイクル認定製品の認定を受けた企業が集まり、認定製品の利用拡大とリサイクル産業の発展のため、各種イベントへの出展やＰＲ等を、全国に先駆けて実施している。	20
団体	静岡	消費研究グループ いそじ会	昭和 51 年の結成以来、ごみ減量、再資源化について市民への啓発活動を実施。上質紙の回収事業や不要になったバスタオルから防災ずきんを作る等の再利用製品の作成実習、小売店への包装改善依頼などを実施している。	22
団体	京都	京田辺エコパークかんなび	平成 19 年より京田辺市のごみ処理施設の一フロアを借り、市民から出た不用品を引取り、点検・修理して市民に安価で販売する活動を実施。さらに不用品の再活用のための教室も実施。	24
団体	鳥取	鳥取県商工会女性部連合会	ごみの減量・リサイクル活動を 20 年間実施。平成 23 年度からはミックスペーパーのリサイクル、段ボールコンポストを推進。また、平成 26 年からは県内でいち早く食品ロス削減の運動にも取り組んだ。	26
団体	徳島	特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー	平成 17 年よりゼロ・ウェイスト社会をつくるために、34 分別を行う上勝町内唯一のごみ資源集積所の管理や、不要となった衣類・雑貨等のリユースや布類からリメイク商品の作成販売する施設を運営。さらに、全国から訪れる多くの視察者の対応等も行っている。	28
団体	福岡	学校法人本城学園 本城東幼稚園	平成 16 年から資源ごみの回収を開始し、現在では生ごみの堆肥化を園児とともに行い、その堆肥を使用した野菜栽培から調理まで関わることで、食べ物の大切さを園児に教えている。そのほか、保育参観での環境教育や園だよりを通じて保護者へのエコの普及を図っており、さらに地域にも資源回収などの活動を広げている。	30
団体	福岡	洞南四地区活性化委員会	平成 17 年から地域の祭りである祇園山笠競演会後のごみ拾いを開始。平成 22 年度からは資源ごみ回収とエコ活動の啓発を目的としたイベントを年 2 回開催するなど、地域一体型のエコ活動を目指している。	32
団体	福岡	NPO 法人　こすみんず	廃食用油の回収事業を地元飯塚市に提案し、平成 20 年には市内３自治会をモデルとした廃油回収事業を実施。その結果を踏まえ授産施設でのバイオディーゼル燃料の製造、それを市の公用車で活用するという仕組みを構築した。	34
団体	福岡	ボランティア団体 おもちゃ病院伊都国	平成 19 年より壊れたおもちゃを無償修理する「おもちゃ病院」を開始。また、「おもちゃ修理体験学習支援」などの多角的な活動を実施し、子供たちや地域住民への環境意識の定着化に寄与している。	36

団体	熊本	特定非営利活動法人 熊本県有機農業研究会	発足以来、有機農業の普及だけでなく、菜の花栽培から廃食油の回収とバイオディーゼル燃料の農業機械での使用を進める「菜の花プロジェクト」の実施や、竹チップを使った堆肥化等を実施してきた。平成 22 年からは、毎年開催のイベントにおいて、食器洗浄を授産施設に依頼してリユース食器を導入するようになった。	38
個人	佐賀	西本　勝次	多年にわたり３Ｒの推進に多大な功績を残してきた。平成 23 年度からは市区長会長・環境衛生推進協議会長としてマイバックキャンペーンや生ごみの堆肥化等を推進するなど、循環型社会形成のためにリーダーシップをとってきた。	42

参考資料

資料１　循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領 47
資料２　平成 23～27 年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞者一覧 57

3R活動優良企業

名　称：株式会社きのとや

代表者：代表取締役会長　長沼 昭夫

活動を開始した年月：平成 17 年（2005 年）

Ⅰ．活動を開始した背景

昭和60年設立の洋菓子製造販売を行う弊社は、「経営基本方針」に「①お客様第一主義、②環境整備の徹底」を掲げています。弊社にとって「環境」とは、社内の環境は言うまでもなく、地域の環境も含めたものであり、北海道内の環境保全に貢献することが、経営基本方針の「環境整備の徹底」を推し進める上で極めて重要であると考えておりました。設立以来、衛生管理の徹底や本社工場・店舗周りの地域清掃に取り組んでいましたが、平成14年ころからゼロ・エミッションを強く意識するようになり、より具体的な行動を起こすようになりました。

Ⅱ．活動内容

下記の①から⑤の取組内容を年ごとに追加していき、平成 24 年には、それまで廃棄していた部分の再利用による商品化を行いました

① 搬入・搬出業務において段ボール箱から、再利用できるコンテナへの切替え。

② 100％リサイクル可能なガラス瓶（プリン容器）の自主回収。店頭にお持ちいただくと瓶10個分で１個商品と交換。

③ 主力商品「札幌農学校クッキー」の包装素材を再生紙（100％）へ。

④ 年間約30トン廃棄していた食品残さのほぼ全量を、養豚の飼料として再資源化。

⑤ お菓子の切れ端など、それまで廃棄していた部分の再利用による商品化。

お菓子の切れ端で作った新たな商品

Ⅲ．活動の実績又は成果

（１）排出量の対比

平成18年度のごみの排出量は45トン/年でしたが、平成27年度は約80％削減し10トン/年となりました。

区分	H18年度	H22年度	H27年度
食品残さ	30トン	0トン	0トン
廃プラスチック類	1トン	1トン	1トン
紙くず	0.5トン	0.5トン	0トン
ガラス類	13.5トン 約10％回収	9トン 約40％回収	9トン 約40％回収
排出量計	45トン/年	10.5トン/年	10トン/年

（２）その他

○地域クリーンアップ

経営基本方針の「環境整備の徹底」に向けた取組の一環として、年間を通して従業員が毎日、店舗や本社工場周辺の清掃活動を行っています。また札幌市の清掃活動にも定期的（年２回）に参加しています。

○北海道庁の省エネキャンペーンに協賛

地球温暖化防止のために節電を促進する「ほっかいどう・省エネ３Ｓキャンペーン」の夏の陣・冬の陣に賛同し、協賛しています。

○札幌市役所の「小金湯さくらの森」に協賛

札幌市「さくらの名所づくり構想」の下、桜を中心とした新たな公園造成を計画する 「小金湯さくらの森募金協力会」に協賛し、植樹される苗木購入費等の募金活動を行っています。

○産学連携

「まぼろしの黒大豆」と言われる黒千石を、北海道大学や北竜町黒千石事業共同組合をはじめとした専門機関の協力の下、「黒千石のフロランタン」として商品化しています。

（３）表彰実績

平成27年度　北海道ゼロ・エミ大賞　大賞（北海道知事表彰）

所在地　〒007-0805　北海道札幌市東区東苗穂５条３丁目 7-36

連絡先　TEL：011-786-6161　　e-mail：info@kinotoya.com

ＵＲＬ　http://www.kinotoya.com/

名　称：生活クラブ生活協同組合北海道

代表者：理事長　山﨑 栄子

活動を開始した年月：平成５年（1993 年）11 月

Ⅰ．活動を開始した背景

生活クラブでは、戦後の高度成長による“大量生産・大量消費・大量廃棄”がもたらしたごみ問題の解決と持続可能な循環社会の構築を目指し、びんを回収して再使用する活動を、生活クラブ神奈川と共に全生協に先駆けて始めました。容器包装を大切な資源と考え、ムダにせず繰り返して使うこのシステムをグリーンシステムと呼びました。

Ⅱ．活動内容

（１）Ｒびんの種類

900ml、500ml、360ml、350ml ユニバーサルデザイン、200ml、200ml ドレッシングを統一規格ビンとし、ジュースから調味料まで約 38 種類のびんをリユースしています。

軽量びんや、ユニバーサルデザインに配慮したビンの開発により、回収率アップを目指しました。

（２）回収方法

洗ビン工場の負担軽減から、組合員自らが洗ビンやラベルはがしを行います。その後、共同購入の配達トラックで回収して配送センターに集めます。そこから提携する回収業者がそれぞれの洗びん業者に送り、再利用可能となったびんは各生産メーカーが使用します。

共同購入の配達という仕組みがあり、組合員一人一人に循環型社会に向けた運動という主旨を伝えることが強みになっています。

Ⅲ．活動の実績又は成果

（１）平成 27 年度回収実績

びん種	供給	回収	回収率
900	92,602	81,367	87.9%
500	75,997	62,107	81.7%
360	36,409	29,301	80.5%
350 UD	117,882	82,724	70.2%
200	26,025	16,872	64.8%
200 ドレ	12,585	6,196	49.2%
合計	361,500	278,567	77.1%

（２）表彰実績

平成 27 年度　北海道ゼロ・エミ大賞　優秀賞（北海道知事表彰）

所在地	〒063-0829　北海道札幌市西区発寒 9 条 13 丁目 1-10
連絡先	TEL：011-665-1717
ＵＲＬ	http://www.s-coop.or.jp/

名　称：株式会社エヌエスオカムラ
代表者：代表取締役社長　鎌倉 康雄
活動を開始した年月：平成 26 年（2014 年） 4 月

Ⅰ．活動を開始した背景

当社は、株式会社岡村製作所の東日本の生産拠点として平成３年に設立された事務用鋼製家具製造事業を行う事業者です。平成 23 年３月 11 日の大震災で工場が全壊し生産停止を余儀なくされました。しかしながら各種支援の下、工場を新設し平成 24 年５月より操業を再開できました。

その後、操業度の向上を伴って平成 26 年には第２種エネルギ管理工場に指定され、これを機会に省エネ活動に取り組みました。とりわけ全エネルギの 96%を占めていた塗装工程に着目し、大きな加温熱源が必要でエッチング処理による産廃化成スラッジ発生が不可避であった塗装前処理工程の改革を目指し、全社一丸となった活動を展開しました。

Ⅱ．活動内容

塗装前処理の改革策は省エネ対策・環境対策を主目的として、

① 槽温度の常温化

② 水洗負荷減

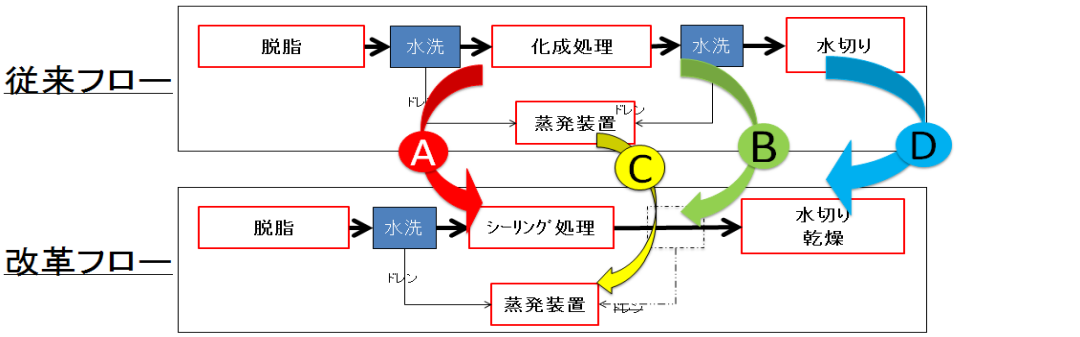
③ 化成スラッジ量ゼロ化

を達成する新たな処理プロセスを目指しました。

検討の基本として、目的を達成する本質的技術は表面エッチング方式から常温液体塗布方式の成立が必須の条件と考え、無機物（鋼板）と有機物（塗料）の架橋剤として汎用材料であるシランカップリング剤の適用開発を追求しました。

開発過程においては、所期の省エネ・環境効果は見込まれたものの、塗布条件によって塗膜品質不良を来す場合が多く、この影響回避が最大の課題でした。

しかしながら独自に開発したシラン剤への触媒添加技術で課題を解決し、量産化に移行することに成功しました。（平成 28 年 10 月現在、特許化手続き中）

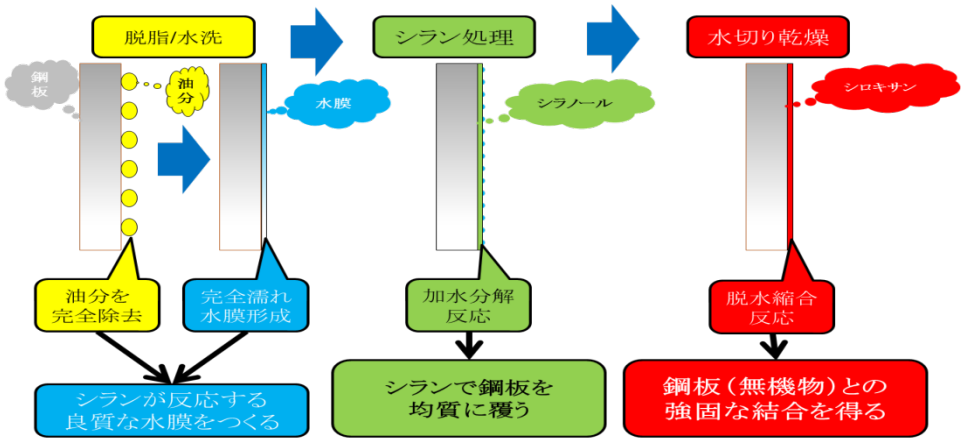


狙い	プロセス		改革内容	効果
	A	化成	化成反応処理から塗付シーリング処理への変革	1 化成反応スラッジのゼロ化 250℃処理⇒常温処理 による大幅な熱負荷減少
	B	水洗	処理後水洗槽の不要化	水負荷の減少
	C	ドレン処理	ドレン負荷減	水負荷減によるドレン減少 ⇒乾燥炉熱負荷減
	D	水切り乾燥	水洗量減による製品付着水量減	乾燥炉熱負荷減

産廃量削減!!

熱エネルギ削減！

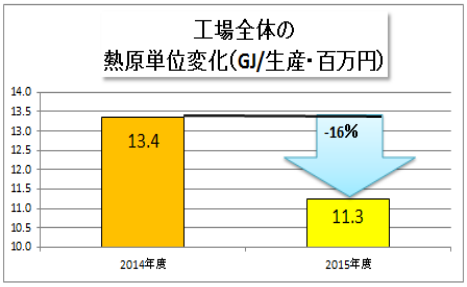
【シラン前処理成立のための条件】

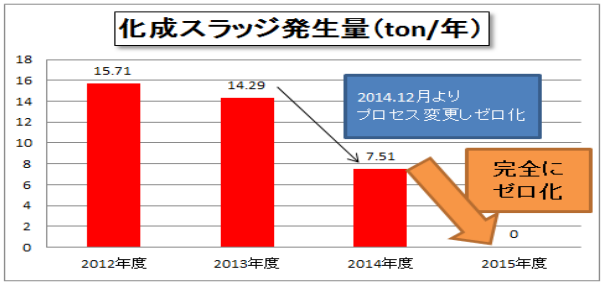


Ⅲ．活動の実績及び成果

以上の活動の結果、前処理は「脱脂⇒水洗⇒シラン剤塗布」で完了する簡易なプロセスとなり、平成 26 年 12 月より順調に生産を継続しています。

省エネ効果として、工場全体の平成 27 年度の熱原単位は対前年比で-16%の大幅な削減を達成し、年間約 15 トン発生していた化成スラッジは完全にゼロ化することができました。





【定量的効果のまとめ】

1.省エネ	LPG 使用量 62,130m^3/年削減 =換算 CO2 排出量 334 トン/年削減）
2.産業廃棄物削減	化成スラッジ発生ゼロ化：15 トン/年の削減
3.材料費削減	化成剤⇒シラン剤への変更で 10 百万円/年の購入費低減
※以上の改善を、設備投資ゼロベースで達成	

【取得認証関連】

① ISO9001：2015 （JQA-QM4055）、ISO14001：2015（JQA-EM1618）

② 書架・物品棚 JIS S1039:2015 認定工場（JQ0212001）

■今回案件は平成 28 年度「省エネ大賞［省エネ事例部門］経済産業大臣賞（産業部門）」（主催：一般財団法人省エネルギーセンター）を同時に受賞いたしました。

所在地 〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町 23-15

連絡先 TEL：0193-22-6551 e-mail：shinichi_niinuma@nsokamura.co.jp
（担当：技術部 新沼 伸一）

名　称：サントリー食品インターナショナル株式会社

代表者：代表取締役社長　小郷 三朗

活動を開始した年月：平成 28 年（2016 年）３月

Ⅰ．活動を開始した背景

当社は、３Ｒの考え方に基づいた容器包装の環境負荷低減に取り組んでいます。容器包装がもたらす社会的影響を強く認識し、平成９年に自主基準「環境に係る容器包装等設計ガイドライン」を設定し軽量化やリサイクルのし易さを追求しています。また、特にペットボトルに関しては３Ｒを進化させた「２Ｒ＋Ｂ」（Reduce、Recycle、Bio）戦略に基づき、原材料についても「グリーン調達基準」に従い環境負荷の少ない素材を採用しています。商品開発から、お客様の飲用時、更にリサイクル処理を行うまでのユーザビリティと環境負荷低減を配慮した容器包装の開発・設計に取り組んでいます。

Ⅱ．活動内容

【世界初！飲料用ペットボトルに植物由来原料30%使用したキャップを導入】

植物由来原料を30%使用した飲料用ペットボトルキャップを世界で初めて※1導入し、平成28年より、「サントリー天然水」ブランドで展開していきます。

※1　平成28年１月時点　　当社調べ

なお、平成28年９月末より、天然水南アルプス白州工場（山梨県北杜市）にて、植物由来原料を30%使用し、2.05ｇから国産最軽量※2となる1.85ｇ※3へと更に軽量化したキャップを導入しています。

※2　平成28年９月時点　当社調べ
※3　重量は平成28年９月時点の設計値

また、当社はこれまでに、「サントリー天然水」（550ml）に植物由来原料を30%使用したペットボトルを既に採用し、環境負荷低減を目指した取組を展開しています。今回の取組により、「サントリー天然水」のボトル・キャップ・ラベル全てで環境に配慮したパッケージを実現しました。

＜サントリー天然水における環境負荷低減活動の変遷＞

■植物由来原料を30%使用した国産最軽量※4ペットボトルを採用　（平成25年５月）

「サントリー天然水」植物由来原料を30%使用した独自開発の国産最軽量※4（11.3g）ペットボトルを550ml（自動販売機対応商品は除く）に導入を開始しました。

※4　平成28年３月時点　当社調べ　国産ミネラルウォーターペットボトル（500ml～600ml）対象

■国産最薄※5 12μmのロールラベル使用の拡大

平成26年４月に国産最薄12μmの商品ラベルを実用化し「サントリー天然水」に導入して以降「伊右衛門」「サントリー ウーロン茶」「GREEN DA･KA･RA」などを含む約６割の商品に使用を拡大しています。このロールラベルは、再生PET樹脂を80%含んでいます。

※5　平成28年９月時点。当社調べ。１μm（マイクロメートル）は１mmの1000分の1

Ⅲ．活動の実績又は成果

●飲料用ペットボトルに植物由来原料 30%使用したキャップを導入することで、現行ペットボトルキャップに比べ、石油由来原料の使用量を約３割削減※6し、CO2 排出量を 21%削減※6することが可能となりました。

※6　「サントリー天然水」（550ml）ペットボトルキャップ１個当たり

所在地　〒104-0031　東京都中央区京橋 3-1-1　東京スクエアガーデン

連絡先　TEL：03-3275-7031
（担当：コーポレートコミュニケーション部　森本 真治、大佐古 一徳）

ＵＲＬ　http://www.suntory.co.jp/softdrink/

名　称：森永乳業株式会社　東京工場
代表者：東京工場長　山本 陽一
活動を開始した年月：①ファインバブル設備　平成 25 年（2013 年）４月 ②おから飼料化　平成 25 年（2013 年）10 月

Ⅰ．活動を開始した背景

森永乳業グループは、平成５年に環境保全業務要綱を制定し、環境保全活動の一つとして「３Ｒ活動」を積極的に推進しています。平成27年度のグループ全体の製造事業所における再資源化率は98.6%、直接最終処分率は0.3%でした。

東京工場では、デザート（焼きプリン）、ロングライフ豆腐、業務用生クリームなどを製造しています。ISO14001を中心とした環境活動の中で、廃棄物の更なる削減を目指し「余剰汚泥の発生抑制」と「食品廃棄物の飼料化」に取り組みました。

Ⅱ．活動内容

（１）排水処理ファインバブル設備の導入

排水処理工程（活性汚泥法）で発生する「余剰汚泥」は工場での産業廃棄物発生量の約40%を占めており、発生量の抑制は大きな課題となっていました。これまで引抜した汚泥を脱水・乾燥させることで減容処理などを行っていましたが、処理の安定化と更なる余剰汚泥量削減を目指してファインバブル装置を導入しました。

本ファインバブル装置は直径が数十マイクロメートル以下の微細な気泡を排水処理に吹き込むものですが、これにより、これまで分解が困難であった油脂成分等の処理が安定して行えるようになり、生産量に大きな変化がないにも関わらず、外部に処理委託していた汚泥発生量を80%削減させることができました。

（２）豆腐おからのサイレージ飼料化

東京工場で製造しているロングライフ豆腐は飲料の無菌充填技術を応用し開発した製品で、10か月間もの保存が可能なことから食品ロスの削減にも役立っているものです。この豆腐の製造に際しては、原料の大豆の投入量とほぼ同重量の「おから」が副産物として発生します。当工場においては、豆腐製品製造開始当初から20年以上にわたり、「おから」を食品廃棄物として処理していましたが、今回このおからを乳酸発酵させサイレージ飼料を製造し、全量酪農家に販売することにしました。これにより豆腐製造由来で発生していた食品廃棄物のゼロ化を実現することができました。

Ⅲ．活動の実績又は成果

（１）排水処理ファインバブル設備の導入

ファインバブル装置の稼働開始から汚泥発生量の削減は順調に推移し、平成27年度には外部処理委託している余剰汚泥量を設備導入前の平成24年度比で約80%削減しました。また、排水処理水の水質も安定しています。

（２）豆腐おからのサイレージ飼料化

平成26年１月より稼働を開始し、確実に実績をあげています。発生するおから全量の飼料化に成功したことから、平成26年度以降はおから由来の食品廃棄物のゼロ化を達成し、継続しています。

所在地　〒124-8577　東京都葛飾区奥戸 1-29-1

連絡先　TEL：03-3692-1121

ＵＲＬ　http://www.morinagamilk.co.jp/

名　称：株式会社星野リゾート　軽井沢事業所

代表者：代表取締役社長　星野 佳路

活動を開始した年月：平成 11 年（1999 年）

Ⅰ．活動を開始した背景

星野リゾートは、リゾート運営会社としての事業を持続可能なものとするため、「利益」と「顧客満足度」を最大化させながら、「環境」を維持し、３つのバランスを取ることは必要不可欠であると考えています。リゾート地において自然環境の保全は、資産価値の維持に直結することであり、リゾート運営を行う企業としての競争力となるからです。

Ⅱ．活動内容

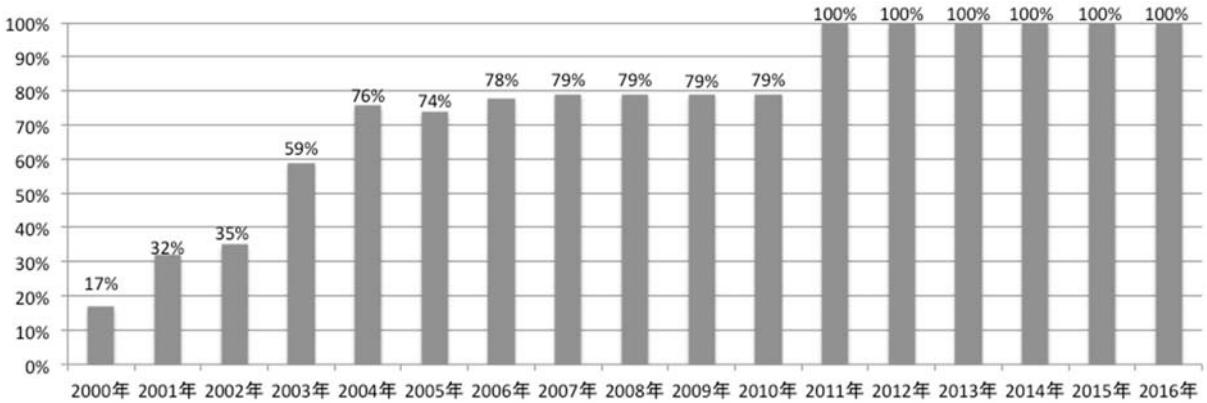
軽井沢事業所（星のや軽井沢・軽井沢ホテルブレストンコート・星野温泉 トンボの湯・村民食堂・ピッキオの計５施設）では、ゼロ・エミッション（運営によって生じる廃棄物の単純焼却・埋立てごみゼロ＝リサイクル率 100%）を達成するため、平成 11 年「ゼロ委員会」を立ち上げ、平成 28 年 11 月現在も継続しています。

ゼロ委員会の活動の様子
各部署からメンバーを募り、
定期的に開催

Ⅲ．活動の実績又は成果

（１）ゼロ・エミッションの達成と継続

婚礼料理の当日選択制の導入、生ごみの堆肥化、29 種のごみ分別を行うことにより、ホテル業界としては初めて、平成 23 年 11 月にゼロ・エミッションを達成。平成 28 年現在も維持しています。



軽井沢事業所のごみ再資源化率の推移

ア．婚礼料理の当日選択制の導入（リデュース）

披露宴では同じ料理を同じ分量で提供するという常識を覆し、当日に着席した段階で和食か洋食、肉か魚、料理の分量を選択できるようにしました。結果、当日の空腹時の度合いによって注文ができ、加えて、好き嫌いでの食べ残しが減りました。この「当日選択制」は生ごみの軽減だけでなく、顧客満足度向上や婚礼事業の競争力にも役立っています。

イ．生ごみの堆肥化（リサイクル）

生ごみは、近隣の牧場で堆肥としてリサイクルしています。毎週数回牧場から生ごみを引き取りに来ていただき、1か月に1度はスタッフも 20 名程度集まり、牧場へ直接運搬します。こうして出来た堆肥は、野菜の栽培に使用され、牧場で作られた野菜を軽井沢事業所が仕入れています。

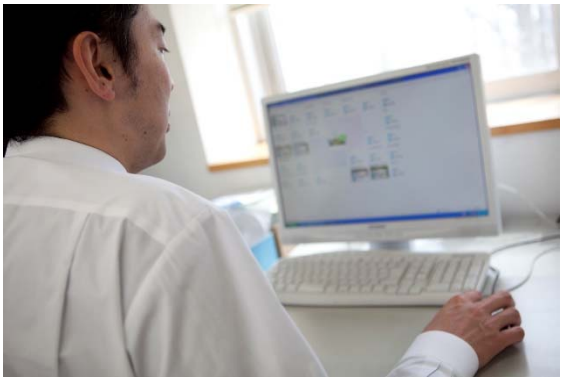
近隣牧場への生ごみの搬入

ウ．廃棄物の 29 種分別（リサイクル）

再利用ができないごみは、合計 29 種類に分別しています。
分別を間違えないため、イントラネット上にある、星野リゾート資源分別ゲーム「シゲカツ」を実施しています。このゲームは、日常の業務でよく排出されるごみの正しい排出方法を覚えるために開発しました。全部で 100 問あり、1つずつを正しい分別方法に振り分ける簡単なゲームです。分別は面倒だという気持ちをなくし、ゲームにすることで楽しく分別ルールが覚えられるように工夫しています。分別ゲームは、トレーニングの一環として、業務時間内で行われます。

1	食品資源	16	段ボール
2	汚泥	17	牛乳パック
3	シュレッダー	18	雑紙・新聞
4	プラスチック容器包装	19	割り箸
5	発泡スチロール	20	アメニティ(歯ブラシ)
6	ペットボトル	21	インクカートリッジ
7	布	22	リターナルビン
8	ビン	23	廃油
9	電球	24	家電リサイクル品
10	ガラス・陶器	25	サーマル資源
11	金属	26	サーマルその他不燃プラ
12	アルミ	27	木製品
13	鉛	28	電池
14	ケーブル	29	キャンドル
15	缶		

軽井沢事業所独自の 29 種のごみ分別



分別ゲーム「シゲカツ」で
トレーニングを行うスタッフ

エ．不用品の他部署での再利用（リユース）

キャビネットや棚などの不要品が発生した場合は、一部署だけで判断せず、軽井沢事業所全体で再利用できるところがないか、確認してから粗大ごみとするルールがあります。不要品が出た時点で、軽井沢事業所全体に不要品の写真やスペックをメールに添付して送ります。ほぼ必ず他部署から引き取りたいという要望が上がり、大きなごみも再度資源として利用される仕組みができています。

（２）表彰実績

平成 15 年　第６回グリーン購入大賞　環境大臣賞（グリーン購入ネットワーク））
平成 18 年　第 15 回地球環境大賞　フジサンケイビジネスアイ賞（フジサンケイグループ）
平成 19 年　地球温暖化防止活動環境大臣表彰　対策技術導入・普及部門
平成 19 年　第 12 回新エネ大賞　資源エネルギー庁長官賞（一般財団法人新エネルギー財団）
平成 24 年　リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰　経済産業大臣賞
（リデュース・リユース・リサイクル推進協議会）

所在地　〒389-0195　長野県北佐久郡軽井沢町星野

連絡先　TEL：0267-45-6082（軽井沢広報）　e-mail：all-k-kouhoutai@hoshinoresort.com

U R L　http://www.hoshinoresort.com

名　称：株式会社りゅういき

代表者：代表取締役社長　井戸 輝雄

活動を開始した年月：平成３年（1991 年）３月

Ⅰ．活動を開始した背景

弊社は、平成３年から、公益社団法人岐阜県浄水事業公社からの委託を受け、各務原浄化センター汚泥処理業務に参画していました。当時は下水汚泥のほとんどは埋立処分されており、最終処分される産業廃棄物のうち大きなウェイトを占めていました。

一方、最終処分場の残余容量も逼迫する中で、岐阜県ではリサイクル認定制度を創設し、産業廃棄物をリサイクルし活用する動きを起こし始めていました。

こうした背景の中で、弊社は、下水汚泥の埋立処分からの脱却を掲げ、異業種交流をはじめとする下水汚泥のリサイクル処理を推し進めることにしました。

Ⅱ．活動内容

弊社は、石灰製造技術と地盤改良工事の実績のある２社との異業種間交流を活発化させ、下水汚泥と石灰の混合物を焼成し、新たな土質固化材を開発しました。商品名をタフロックスーパーＲとして、土質が緩んでいる現場で利用されることとなり、平成９年には、岐阜県リサイクル認定製品の第１号認定品となりました。

タフロックスーパーＲ

速硬効果、早期強度発現効果、圧密度増大効果、長期安定性、耐久性に優れており、従来の地盤安定剤に比べて格段に作業効率向上

過去 10 年間の使用実績（公共工事等）

H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
15	11	10	5	16	9	11	6	13	8

（工事数）

さらに、新たな利用を模索し、平成 19 年からは、バイオマス燃料化によるリサイクルにも着目し、熱量約 4,000 キロカロリーのバイオマス燃料の製造に取り組み、大阪住友セメント(株)岐阜工場と提携し、燃焼材として使用されるとともに、一部セメントの原料としました。

バイオマス燃料

こうした取組みにより、各務原浄化センターから排出される下水汚泥は、100%リサイクルされることとなりました。

Ⅲ．活動の実績又は成果

【廃棄物の削減効果】

埋立処分が行われていた下水汚泥が有効な資源として再生利用され、下水汚泥を焼却などにより95%の減量化により、最終処分場の埋立容量の削減に大きく寄与しました。

【普及啓発】

弊社は、県民や企業に対して、リサイクル製品の安全性や利用を促進する講演会の開催や各種展示会に積極的に参加し、普及啓発活動を行っています。

講習会開催状況

開催回数　平成 10 年から年 1 回開催
　　延べ 18 回開催
講　　師　環境省、経済産業省、国土交通省から招聘
参 加 者　延べ約 3,600 人

平成 25 年度開催講演会の様子（岐阜県生活部長挨拶）

所在地	〒503-1602　岐阜県大垣市上石津町牧田 3434-21
連絡先	TEL：0584-47-2660　　FAX：0584-47-2662
ＵＲＬ	http://www.ryuiki.co.jp/

３R活動推進功労（団体）

名　称：志木市くらしの会

代表者：会長　木下 里美

活動を開始した年月：昭和 50 年（1975 年）５月１日

Ⅰ．活動を開始した背景

消費社会化が進み、商品の品質問題等が増加したことを受け、その社会変化に対応できる「賢い消費者」の育成を目的として、埼玉県からの呼びかけもあり「志木市くらしの会」を立ち上げました。

当初から消費生活センター等に会員が行き、人工着色料、食品及び清涼飲料水に含まれる糖度、CO2、ごみ問題、廃油の始末等の環境問題について、現場見学や体験者の話を聞くなどして学習の機会を重ねてきました。

時代の変化に適応し、自ら考え行動する消費者の育成や、安心して暮らせる社会形成を目指して活動をしています。

Ⅱ．活動内容

◆地産地消への取組

・　志木市における地産地消事業「アグリシップしき」において、地元野菜の販売に協力し、マイバッグ持参運動を実施。また、購入者に対し調理や保存の方法を指導。

・　地元野菜等を使った料理講習会を年２回実施。

◆環境保全活動

・　交通量の多い地点における CO2 測定活動を３年間継続して実施。

・　年２回、志木市の清掃活動への参加及び協力。

◆子どもに対する消費者教育

・　夏休みに、小学生を対象として「子ども消費者教室」を実施。古布の裂き織りや紐を作るリサイクル体験や、清涼飲料水に含まれる糖度の検出実験を通じ、普段何気なく口にしている食品の安全性や自身の健康に関心を持ってもらうきっかけとするなどの教室を 30 年間継続。

◆ごみ減量運動

・　生ごみを乾燥させ、軽量化を図り、コンポストに入れて肥料にする活動を実施。

消費生活展　展示

志木市地産地消事業「アグリシップしき」

◆消費者啓発活動

・　志木市消費生活展の運営。来客者に対し、エコやリサイクルに関する啓発をしたり、不要になった傘の布から買い物バッグや古着、ネクタイ、帯、小物入れ等を作り販売。

・　志木市と共催で消費者啓発セミナーを実施。

◆学習会等への積極的な参加

・　毎年、埼玉県消費者大会へ参加。

・　契約トラブルや商品トラブル、多重債務問題等、身近な消費生活問題について、知識習得のため講座に参加。

・　会員を対象として、ビール、ヤクルト、チーズ、マヨネーズ等食品関連工場や美術館、博物館などへの研修視察を年１回実施。

消費生活展　リサイクル品販売

Ⅲ．活動の実績又は成果

年間３回の講習会等を実施、また９回のイベントにも参加。講習会への参加者は年間で延べ 800 人にもなります。

・　廃油から粉石けんを作り、イベントなどで販売（500 ㎏程度）しました。売り上げは、志木市社会福祉協議会に寄付しました（現在未実施）。

・　粗大ごみとして出された家具を手入れして、必要な人に格安で販売（100 個程度）しました。また、会員から出された古着や不用品をフリーマーケットで販売し、売上げは、志木市社会福祉協議会に寄付しました（現在未実施）。

子ども消費者教室　糖度測定

【受賞歴】

・　埼玉県の表彰で、住みよい地域社会実現に向けた実践活動を行う個人・団体を表彰する「シラコバト賞」を、これまで平成５年、24 年、25 年、28 年に計４名の会員が表彰されました。

・　「埼玉県消費生活功労者表彰」で、これまで平成 11 年、15 年、16 年、27 年、28 年に計６名の会員が表彰されました。

料理教室　防災米調理体験

所在地　〒353-8501　埼玉県志木市中宗岡 1-1-1（志木市市民生活部産業観光課）

連絡先　TEL：048-473-1111　　e-mail：sankan@city.shiki.lg.jp

名　称：石川県リサイクル認定製品取得企業連絡協議会

代表者：会長　向井 健夫

活動を開始した年月：平成 13 年（2001 年）11 月

Ⅰ．活動を開始した背景

本協議会は、平成 13 年 11 月、石川県エコ・リサイクル認定製品（以下「認定製品」）の認定を県から受けた企業が集まり、認定製品の社会的地位を高め、循環型社会づくりに貢献することを目的として設立し、活動を開始して 15 周年を迎えます。

認定製品取得企業で協議会を設置し、認定製品の利用拡大とリサイクル産業の発展のため、各種イベントへの出展や認定製品を PR するプレゼンテーションの開催等、全国に先駆けて活動しています。

Ⅱ．活動内容

県内の廃棄物の減量化と再利用を推進し、県内で発生した廃棄物をできるだけ県内で再生利用する地域完結型リサイクル社会の構築を目指し、県内各種イベントで一般県民や企業等へ認定製品の利用拡大とリサイクル産業の発展、廃棄物の再資源化を促進しています。

これまで、協議会会員が一致団結し、石川県環境部廃棄物対策課と連携しながら石川県エコ・リサイクル認定製品のプレゼンテーションの開催をはじめ、石川県環境部の「いしかわ環境フェア」への出展協力、石川県産業創出支援機構が実施する「ビジネス創造フェアいしかわ」へ出展する等、認定製品の社会的地位向上と啓蒙・普及を通じ、廃棄物の排出抑制・再利用に取り組んでいます。

Ⅲ．活動の実績又は成果

平成 16 年度から石川県環境部と共催で、国や県、市町の公共工事設計実務担当者及び民間の建築設計担当者を対象として認定製品のプレゼンテーションを実施し、以降、毎年度実施しています。

平成 20 年度から一般県民への PR として「いしかわ環境フェア」に参加し、認定製品の展示・広報を実施し、以降、毎年度実施しています。認定製品展示ブースで来場者向けにクイズラリーを実施することにより、児童・生徒にもリサイクルの具体例を示すことで、３Ｒ（廃棄物の排出抑制・再使用・再生利用）の推進に努めています。

平成 22 年度からは、企業への PR として「ビジネス創造フェアいしかわ」に参加し、認定製品の展示・広報を実施し、以降、毎年度実施しています。

以上の活動により、リサイクル認定製品の数は、平成 10 年度の認定制度の開始時には、９企業 11 製品であったものが、平成 28 年４月１日では 44 企業 91 製品と大幅に増加し、石川県のリサイクル認定制度の普及に努めています。

また、平成 23 年度からは、認定製品取得企業向けに、講師を招いて製品アイデアやデザイン、マーケティング等、様々な視点からのモノづくりに関する講演会（勉強会）や意見交換会を開催し、以降毎年度実施しています。

全国的に、各地方公共団体によるリサイクル認定制度は多数存在していますが、その認定を受けた企業が集まり、販売促進の活動を行うことは希であり、全国で発足時期が最も早い協議会となります。

ビジネス創造フェアいしかわ

認定製品プレゼンテーション

いしかわ環境フェア

講演会

受賞歴

平成 22 年 6 月　ふるさと石川環境保全功労者知事表彰

所在地	〒920-0043　石川県金沢市長田 2 丁目 4 番 8 号（株式会社金沢舗道内）
連絡先	TEL：076-223-4858　e-mail：yyamamoto@tk-g.co.jp
ＵＲＬ	http://ameblo.jp/ishikawa-recycle/

名　称：消費研究グループ　いそじ会

代表者：会長　安間 美恵子

活動を開始した年月：昭和 51 年（1976 年）５月

Ⅰ．活動を開始した背景

昭和 50 年度に磐田市の消費者モニターを務めた主婦を中心に、ごみのリサイクルや、商品の過剰包装などを更に勉強しようと集まり学習会を開いたことがきっかけで「50 年会」が結成され、その後「いそじ会」に団体名を変更しました。現在まで 40 年にわたり磐田市の環境問題、ごみの減量や再資源化への取組み、市民への啓発活動を行っています。

いそじ会では会員間の勉強会により生活の中での問題について調査や研究を独自に行い情報の共有・発信をしています。

Ⅱ．活動内容

年間を通して、毎月上質古紙の回収をはじめ、家庭でできるごみの減量方法の研究、再利用製品の作成実習と、年に一度焼却場や埋立地の先進リサイクル施設等への視察研修を行い、ごみの減量や再資源化の重要性などを広く市民に啓発しています。また、これまでも「環境かるた」の作成や過剰包装の改善に向けた小売店への働きかけなどを行ってきました。

【上質紙回収】

平成15年から上質紙回収事業を開始。（１回／月）

上質古紙５kgまたは牛乳パック４kgをトイレットペーパー１巻と交換しています。

回収事業は口コミで徐々に広がり、利用者は年々増加しています。「分ければ資源」「混ぜればごみ」と「紙」の大切さを市民に呼びかけています。この事業はいそじ会が回収業務、製紙会社が運搬トラックの手配、市が回収場所を提供することで運営されています。女性だけの活動としてスタートしたこの事業は市民に広がり、現在ではまちづくりサポーターの男性や、中学生ボランティアも参加してくれるようになり、活気にあふれた活動が行われています。

【再利用製品の実習と紹介】

家庭から出たごみを活用（加工）し、様々なものを作成しています。実習を通してリサイクルの意識を会員だけでなく、小学校や地域交流センターのイベントに訪れる市民へ紹介しています。特に、家庭で子どもと楽しみながら作れるアイディアを紹介することで、子どものころから環境への関心とリサイクル意識を高める取組みに力を入れています。

【先進施設の視察】

毎年、会員によるリサイクル施設等の視察研修を実施しており、ボランティアの中学生なども同行することもあります。ごみやリサイクルに係る施設など、時代と共に変化していく施設へも足を運び見学することで、常にごみ処理やリサイクルの実態にふれています。

また、視察等で得た情報を日常生活へ活かす方法の検討や市への情報提供をしています。

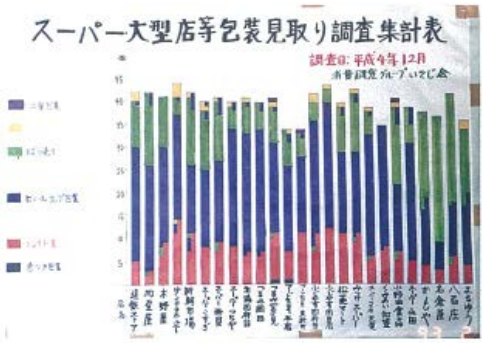
Ⅲ．活動の実績又は成果

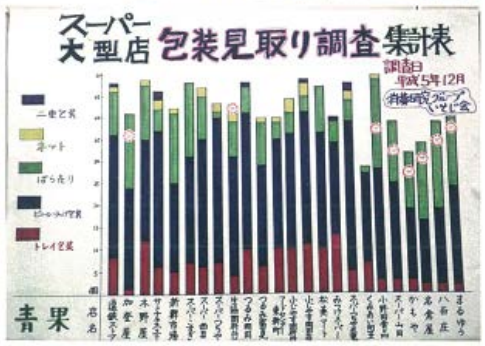
【上質紙回収】

上質な古紙をトイレットペーパーと交換することで、少しの紙ならと可燃ごみに混ぜてしまいがちな消費者のリサイクルの意欲と分別意識を高めることができています。分別意識の向上により廃棄物の排出量が削減されています。(毎月４ｔトラック１台　年間約 50 トンを回収)

【簡易包装の推奨（包装改善依頼）】

自主学習会の中で商品の過剰・不要包装を課題として取り上げ、小売店に並ぶ白色トレーの削減が検討されました。会では独自に市内 26 店舗で青果物 45 品目の実態調査を実施。その結果を毎年開催される販売業者との懇談会で提示し、食品トレーの使用改善を要望しました。現状を知ってもらうと同時に、調査実施店の店主に直接会ってトレーの使用削減の理解と協力を求めました。結果、小売店も徐々に協力してくれるようになり、店頭のトレーが減少し、ラップ包装やビニール袋入りのものが多くなるなど商品への過剰包装が減り、家庭ごみの排出量が削減されています。





受賞歴

平成 27 年 11 月 13 日　静岡県公民館連絡協議会長表彰
（公民館を拠点とした長年にわたるごみ減量やリサイクル方法の普及啓発などの地域活動推進の功績）

所在地　〒438-0061　静岡県磐田市刑部島 301（磐田市環境水道部ごみ対策課）

連絡先　TEL：0538-37-4812　　e-mail：gomi-taisaku@city.iwata.lg.jp

名　称：京田辺エコパークかんなび

代表者：米田　泰子

活動を開始した年月：平成 19 年（2007 年）５月（準備活動：平成 18 年（2006 年）５月～）

Ⅰ．活動を開始した背景

京田辺市は、大阪、京都、奈良の中間に位置し、市南部には同志社大学、同志社女子大学がある学生のまちでもあります。人口増加に伴い、ごみの排出量も増加の一途をたどったことから、ごみ減量の機運が高まり、市は平成15年に同志社大学と連携し、学生が出す粗大ごみの学内リユース事業に取り組みました。リユース事業を市内全域に広げようとする市の呼びかけに各界ボランティア団体の中から、ごみ減量に強い関心を持つ有志が集まり、平成18年に準備会をつくり、平成19年に「京田辺エコパークかんなび」を設立しました。

Ⅱ．活動内容

現在37名のボランティアが月～金曜日の9：30～15：30まで運営しています。

（１）リユース活動

ごみ処理場「京田辺市環境衛生センター甘南備園」の１フロアを市から借り受け、不要品（雑貨、食器、洋服、家具等）を市民からごみになる前に譲り受け、点検・修理して一品10円からの安価で市民に提供するリユース事業に取り組んでいます。また、地域の産業祭や催しに積極的に参加しています。

リユース展示場

（２）「京田辺エコパークかんなびキララ店」の開設・運営

ごみ減量意識やリサイクルへの思いを地域に根付かせると同時に、シャッター通りの目立つ「新田辺駅前東商店街」の活性化を図るために、平成23年６月に「京田辺エコパークかんなびキララ店」を開設し、地域の活性化にも努めています。

（３）「もの作り教室」の開催

会員が講師となり、「布ぞうり教室」「着物リフォーム教室」「正月飾り教室」など、不要品をもう一度生かす「もの作り教室」を市民向けに実施しています。

（４）「子ども体験教室」「もったいない」子どもポスター展の開催

市内小学４年生のごみ処理場見学では、体験学習として、不要品で作る「布ぞうり教室」を実施しています。

また、市内小学４年生を対象に「もったいない」をテーマにしたポスター展を開催し、現在では、市内全９校の小学校から応募があり、将来を担う子ども達に「地球環境」や「３Ｒ」について考えてもらう絶好の機会となっています。

布ぞうり教室

（５）収益金の使途

一品は安価であっても売り上げ点数が多いため、年間約600万円の売り上げがあります。収益金については、市民に還元したり、地域の活性化に資することができるように活用しています。平成21年には、ごみ処理場に太陽光発電設備を設置する事業に協力し、収益金から300万円を寄付しました。また、東日本大震災への350万円の寄付や熊本の震災には200万円の寄付決定等、震災復興の支援も行っています。

（６）活動の特色

会の運営は、会員からの会費と京田辺エコパークかんなびの収益金で十分賄えていますので、行

政からの運営費への補助金を必要としておりません。

Ⅲ．活動の実績又は成果

（１）リユース活動

【廃棄物の削減効果】

家庭での不要品を仲介し、必要とされる市民へ安価で販売（リユース）することにより、年間約40トンものごみを削減しています！

【環境保全効果】

家庭から出る不要品をリユース品として市民に販売するため、ごみとして焼却されないことから、CO2の削減に大きく寄与しています。

（２）もの作り教室

【子ども体験教室】

平成21年度に市内９校の小学４年生の施設見学会のプログラムとして行った「布ぞうり教室」の体験学習は、以後、毎年小学校より開催の依頼を受けており、エコパークの活動内容や３Ｒを考えてもらう機会となっています。

【もの作り教室】

市民向けには平成21年度より、不要品を材料として「布ぞうり教室」「着物リフォーム教室」「正月飾り教室」等を毎月開催し、発足から約100教室を実施しました。

（３）「もったいない」子どもポスター展及び特選作品展

平成21年度から毎年約700名の応募があり、「市長賞」「教育長賞」「エコパーク賞」等を設け表彰し、展覧会を開催しています。子ども達に「地球環境」「３Ｒ」を考える機会を提供しています。

（４）表彰実績

平成 24 年度　第５回ゆめづくりまちづくり賞　優秀賞
（快適都市実現委員会（事務局：国土交通省近畿地方整備局））

平成 25 年度　リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰　会長賞
（リデュース・リユース・リサイクル推進協議会）

平成 27 年度　京都府環境保全功労者表彰

所在地　〒610-0331　京都府京田辺市田辺ボケ谷 58 番地

連絡先　TEL：0774-68-1288　　e-mail:seisou@kyotanabe.jp

ＵＲＬ　http://www.eonet.ne.jp/~risapura/index.html

名　称：鳥取県商工会女性部連合会

代表者：秋田　寿江（アキタ　トシエ）

活動を開始した年月：平成８年（1996 年）６月～

Ⅰ．活動を開始した背景

循環型社会実現のため、３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）の取組を実践することにより、ごみの減量化やリサイクル活動等を通じた環境活動への意識啓発を目的として活動を開始しました。

また、活動の輪を広げるため、次代を担う子供たちをはじめ、地域住民の皆様に環境対策の必要性、大切さを伝え、一人一人が気軽に“できること”を実践してもらうことを目指し、商工会女性部員が率先して取り組むこととしました。

Ⅱ．活動内容

（１）全県的なごみ減量・リサイクルの実践活動の展開

県内の全18商工会女性部（H28.4.1現在の部員数523名）において、ごみの減量・リサイクルの普及活動と実践活動に積極的に取り組んでいます。また、年々、取組内容の拡充や実践者の拡大など、活動の着実な広がりを見せています。

（内容）環境に関する各種シンポジウムやセミナー等の実施、
啓発冊子の作成・配布、ミックスペーパーのリサイクル、
ペットボトルキャップのリサイクル、マイバッグ利用、
生ごみの水切り、食品ロス削減レシピの開発・情報発信、
段ボールコンポストによる生ごみの堆肥化　等

マスコミからの注目度が高かった
「食品ロス削減レシピ発表会」

（２）地域と連携した取組の拡大

商工会ごとに、地域に合わせた手法で独自の取組を展開し、地域と協力・連携しながら普及啓発と取組拡大に努めています。事業者として地域とのつながりを活かし、商工会女性部単独だけでなく、地域全体での取組へと活動の輪を広げています。

（例）　・地域の保育園や小・中学校、公民館等と連携して
ペットボトルキャップを回収
・段ボールコンポストにて作製した堆肥を地元の
ボランティア団体に提供
・段ボールコンポスト作製研修会の実施　等

キャップ 何に変わる？

青谷・すくすく保育園児ら回収

リサイクル事業を推進

地元商工会に寄付

地域の保育園との
連携の様子を掲載
した地元新聞記事

段ボールコンポスト作製研修会

（３）行政等と連携した取組

スーパー等の事業者、消費者団体及び行政で構成する「ノーレジ袋推進協議会」に平成 20 年の発足当時から参加し、県内のノーレジ袋推進やマイバッグの利用促進に取り組んでいます。

Ⅲ．活動の実績又は成果

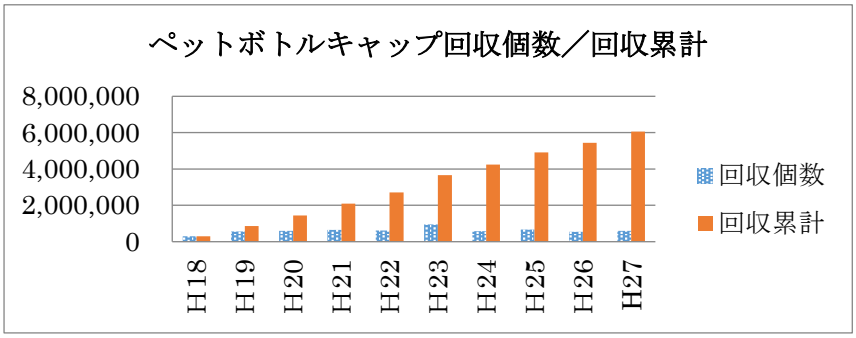
（１）全県的なごみ減量・リサイクルの実践活動の展開

平成18年度に開始したペットボトルキャップの回収・リサイクル事業では、平成27年度末までに約600万個(※)を超えるキャップを回収し、県内のリサイクル企業と協力してベンチ等にリサイクルしています。身近なペットボトルキャップの取組を通してライフスタイルを見直すきっかけを作り、ごみ減量・リサイクルに対する意識啓発に寄与しています。(※)ベンチ約440台分に相当

段ボールコンポストによる生ごみの堆肥化や生ごみの水切りについては、堆肥化の方法の改良や環境に配慮した水切りネット（燃やしても有害物質を発生しないトウモロコシの芯を使ったネット）の選択など、常に改善を図りながらより効果的な取り組みを実施しています。

平成26年度からは、県内でいち早く食品ロス削減運動に取り組み、食品ロスを減らすレシピの開発や料理発表会を実施。地域の食材を利用することにより、食品ロス削減に対する意識醸成はもちろん、地域の食文化の次世代への継承や食育の推進にも貢献しています。

啓発冊子やホームページ、マスコミなど各種ツールを利用して積極的に情報発信を行い、団体内外への普及啓発にも努めています。



食品ロス削減レシピ一例

（２）地域と連携した取組の拡大

保育園や学校等と連携してペットボトルキャップを回収し、集めたキャップから作られたベンチを小学校に寄贈しています。子供たちへの意識啓発とともに、子供から家族や地域への普及啓発にも積極的に取り組んでいます。また、段ボールコンポストで作製した堆肥は、地域のボランティア団体にも提供され、花いっぱい運動やハンギングバスケットに利用されています。

（３）行政等と連携した取組

ノーレジ袋推進協議会に参加し、啓発活動を続けた結果、平成 24 年 10 月に県内で初めて東部地域でのレジ袋無料配布中止が実現し、県内のノーレジ袋の推進に貢献しました。

＜東部地域でのレジ袋辞退率の推移＞

平成 20 年 4 月	平成 21 年 4 月	平成 23 年 4 月	平成 25 年 4 月	平成 27 年 3 月
25.7%	37.8%	42.3%	87.7%	89.2%

受賞歴：平成 21 年　リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰　会長賞
（リデュース・リユース・リサイクル推進協議会）
平成 26 年　鳥取県環境立県推進功労者知事表彰

所在地　〒680-0942　鳥取県鳥取市湖山町東 4-100

連絡先　TEL：0857-31-5556

ＵＲＬ　http://shokoren.infosakyu.ne.jp/women/

名　称：特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー

代表者：理事長　坂野 晶

活動を開始した年月：平成 17 年（2005 年）４月１日

Ⅰ．活動を開始した背景

上勝町が平成 15 年、日本初の「ゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）宣言」を行ったことを機に、ゼロ・ウェイスト推進のための普及・啓発、調査・研究、教育、商品開発等を行うことを目的に、上勝町役場が主導となり上勝町の住民を理事に、町外から事務局長を招いて設立されました。

Ⅱ．活動内容

（１）上勝町・日比ヶ谷ごみステーションの運営

設立当初より上勝町から一般廃棄物中間処理業務の委託を受け、町内唯一の一般廃棄物回収拠点である日比ヶ谷（ひびがたに）ごみステーションの運営、住民への分別指導・補助、持ち込まれたごみの更なる解体・分別による資源化、まだ使用可能な資源の救出等により、一般廃棄物の大幅減量化・資源化に努めてきました。

また、付随した活動として、町内不法投棄パトロール、上勝町の補助する各家庭での生ごみ堆肥化のための電動生ごみ処理機の申込み受付業務、紙資源等の持込み促進のためのポイントキャンペーン運営、町内一斉清掃の企画運営等も行ってきました。

さらに、独自事業として上勝町内の高齢者宅等、ごみステーションへのごみの持込みが困難な世帯へのごみの運搬支援サービスを２か月に１回行っています。

（２）「くるくるショップ」の運営

独自事業として、ごみステーションに無料のリユースショップ「くるくるショップ」を小学生とともに設立し、まだ使えるものの地域内循環を推進しています。持込みは町内住民限定、持帰りは町外からの訪問者でも可能で、持込み・持帰り時に重さを量り、年間のリユース率（＝ごみになるはずのものの予防率）を記録しています。

（３）「くるくる工房」の運営

独自事業として、ごみステーションに持ち込まれた不用の古布・着物・鯉のぼり等を使い新しい商品をつくるリメイク工房「くるくる工房」を運営しています。作られた商品は販売し、売上は上勝町内の高齢者を中心とした作り手に還元されています。

（４）「くるくる食器」の貸出

お祭りやイベント等で使用される「使い捨て容器・皿・コップ」等を削減するため、無料で何度も使えるリユース食器「くるくる食器」の貸し出しを行っています。

（５）ゼロ・ウェイスト政策づくり

上勝町のゼロ・ウェイスト政策の計画策定の補助を行ってきました。住民へのヒアリング調査やワークショップ開催、外部講師の招聘等を行い、中期計画の作成およびキャンペーンやプロジェクト等の提案・実行を行っています。

（６）ゼロ・ウェイストの普及・啓発

上勝町内における住民への分別説明等を切り口としたゼロ・ウェイスト活動の普及はもちろん、町外からの視察や研修の受け入れおよび町外への講演活動等により、ゼロ・ウェイスト活動の普及・啓発に努めています。近年では海外からの講演依頼も増えています。

その他、設立当初より上勝町より「上勝町小規模シルバー人材センター業務」および「上勝町介護予防活動センター管理業務（指定管理)」の委託を受けており、高齢者福祉の分野と連携しながらの取組を続けてきました。

Ⅲ．活動の実績又は成果

（１）上勝町内資源循環の促進

くるくるショップでは例年、リユース率（持込み量に対する持帰り量）8 割以上を記録しています。平成 27 年度は年間の持込み量が約 13 トン、持帰りが約 11 トン。

また、くるくる工房でも年間約 120kg の生地類の再活用が行われています。

（２）上勝町リサイクル率向上および廃棄物処理費用削減への寄与

平成 27 年度上勝町の独自統計によるリサイクル率は 97%､そのリサイクル率に含まれない生ごみは各家庭で 100%堆肥化、平成 27 年度で一般廃棄物処理にかけた費用は全て焼却した場合と比較した場合の６分の１、という記録を生んでいます。

（３）ごみの発生抑制

くるくる食器の年間利用量は約 8,300 個（食器数)。毎年継続している上勝町夏祭りにおいてのくるくる食器利用および資源分別回収センターの設置・運営により、平成 28 年夏祭りでは「燃やさざるをえないごみ」は約 58 リットルのコンテナ１杯以下に止めました。

所在地　〒771-4501　徳島県勝浦郡上勝町大字福原字下日浦 94－4

連絡先　TEL:0885-44-6080　　e-mail:zwa@quolia.ne.jp

ＵＲＬ　http://www.zwa.jp/

名　称：学校法人本城学園　本城東幼稚園

代表者：園長　福田 美香

活動を開始した年月：平成 16 年（2004 年）～(資源倉庫設置)
平成 25 年（2013 年）～(コンポスト導入)　現在に至る

Ⅰ．活動を開始した背景

本園は、日本国内でも珍しい昭和 29 年に自治区会が設立した幼稚園です。平成 16 年より園に資源回収倉庫を設置し、資源ごみの回収を行ってきましたが、平成 21 年度の運動会のテーマを「エコ」にしたことをきっかけに、子供たちがそれまで以上に環境（エコ）に対して関心を持つようになり、それ以降活動が継続するようになりました。

Ⅱ．活動内容

資源倉庫を地域にも開放し、資源倉庫へ運ぶ量が多い時などは、職員が直接取りに行くなどしています。また、物を大切にする心は、自分や周りの人を大切にする心に繋がるという思いから、環境教育を取り入れています。「節電」・「節水」・「ペットボトルの蓋」や「雑がみ」の回収・「生ごみの堆肥化」などを行ってきました。

特に、コンポストは、唯一子どもたちの手でできるリサイクルだと位置付け、食育を絡めてコンポストで堆肥化を行い、子どもたちの手でもリサイクルの輪が回るようにしました。食育とエコ活動が結び付き、より子どもたちにとってエコ活動が、当たり前の活動となっていると感じます。

（１）日頃から取り入れている環境教育

・ポスターの掲示
子どもたちの目の届くところにポスターを貼ることで、自然と意識できるようにしています。

（２）生ごみの堆肥化（コンポストとの関わり）

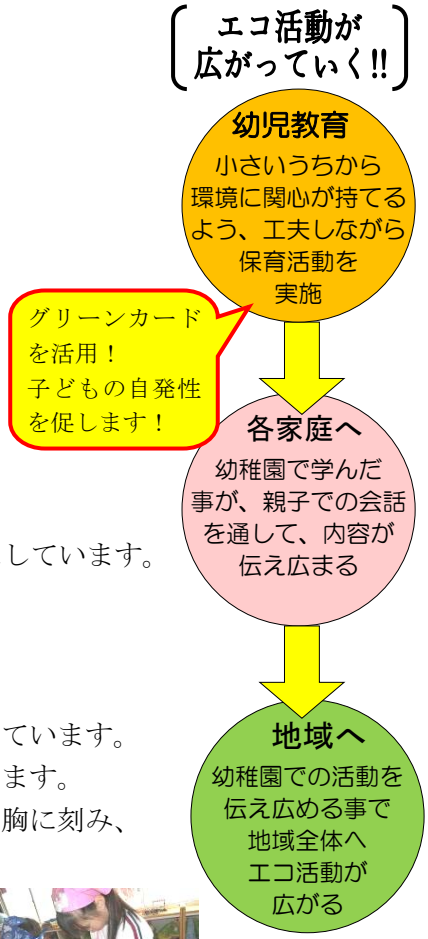
・コンポストに名前を付けることで、子どもたちにとって身近な存在となり、親しみを持ってもらっています。
・当番活動の一環として、子どもたちがコンポストに関わるようにしています。

（３）食育を通してのエコ活動

・生ごみの堆肥化を行い、自園の畑の土に混ぜ込んでいます。
・栄養満点の土で、子どもたちが野菜を育て、収穫しています。
・収穫した野菜でクッキング。⇒ それが、「生きる力」に繋がっています。
・子どもたちが、全ての工程に関わることができるようにしています。
・育て、収穫し、味わう。その感動を、子どもたちはしっかりと胸に刻み、大きくなっても食べ物や物を大切にする心を育んでいます。

（４）保護者（大人）を巻き込んでの環境教育

・家庭教育学級、ゴミ０運動、エコ活動を通じて、子どもと一緒にエコの知識を共有しています。



・年度初めの参観で「エコバック作り」を行い、「なぜエコ活動が大切なのか」、「これからどのようなことに気を付けていくべきなのか」等を、親子で学ぶ機会を作るようにしています。
・親子でクッキングをすることにより、食べ物や「もったいない」と思う気持ちの大切さに気付くようにしています。
・子どもたちと共に取り組むことで、親子で共通理解ができ、幼稚園での取組を保護者にも、より理解してもらうことができるようにしています。

（５）独自の取組

○「グリーンカード」の活用

子どもたちが自発的に行動し、意識を高めるきっかけともなっています。

○「保護者会が主体となっている資源回収」

保護者同士が意識し、声を掛けあうことによって、リサイクルの輪が更に広がりを見せています。得た資金は、子どもたちの活動費に還元されています。

○「コンポストの擬人化」

コンポストに名前が付くことで、子どもたちにとって物ではなく身近な存在となります。幼稚園の飼育動物と同様、コンポストと関わることが当たり前のこととなります。

「たべるちゃん」です！
お部屋の中で、活動中!!
皆が食べられない物を
堆肥に変身させますよ!!

「たべおくん」です！
園庭で、落ち葉や雑草を
栄養満点の堆肥に変身
させているよ!!

○「地域との関わり」

地域の建てた幼稚園ということもあり、地域との関わりを多く持つことができます。「エコ」をテーマにした運動会の開催は、地域など幅広い方々に、幼稚園の取組や、エコ活動の重要性を知ってもらう機会となっています。

☆ 子どもたちの姿を通して、エコ活動・環境教育の大切さを共通理解できるようになります。

エコ活動が、「難しいもの」という意識ではなく、子ども達と楽しみながら取り組むその姿から、周りの意識を変えていくことができます。開かれた幼稚園の位置付けから、エコ活動やグリーンカード活動など、園で行っている取組を、市内の幼稚園や地域に広めていきたいと考えており、エコ活動のコミュニティーの場となっていきたいと考えております。

Ⅲ．活動の実績又は成果

（１）生ごみの減少；堆肥化することで、一日当たりの量が減少しました。

	25 年度	26 年度	27 年度
残食（生ゴミ）	1.8ℓ/日	900ml/日	180ml/日

（２）資源倉庫の活用；年々充実してきています。

※ ペットボトルキャップの回収（5,000 個⇒13,000 個）・資源回収量（10,200 kg⇒10,400 kg）

（３）受賞歴

平成 25 年　エコ事業所表彰　地球にやさしい活動部門　優秀賞（福岡県知事表彰）
平成 26 年　第８回北九州市 3R 活動推進表彰　3R 活動推進賞（リデュース賞）
平成 27 年　福岡県循環型社会形成推進功労者知事表彰
平成 28 年　リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰　文部科学大臣賞
（リデュース・リユース・リサイクル推進協議会）

所在地　〒807-0815　福岡県北九州市八幡西区本城東 1 丁目 18-15

連絡先　TEL：093-602-7617　FAX：093-602-7628　e-mail：honjyo-e-yotien@mirror.ne.jp

ＵＲＬ　http://honjyo-e-kids.jp

名　称：洞南四地区活性化委員会

代表者：会長　佐藤 重行

活動を開始した年月：平成 17 年（2005 年）７月

Ⅰ. 活動を開始した背景

洞南四地区活性化委員会は、北九州市の穴生・竹末・引野・相生町とその周辺地域において、山笠の保存や活性化を目的に、平成 10 年に発足しました。

地域の祭りである、祇園山笠競演会終了後にある大量のごみを目にして、「ごみを出さない祭りにしよう」と平成 17 年から、競演会終了前にごみ拾いを開始しました。

併せて、地域に貢献できる資源ごみの回収をしようと「資源ごみ（古紙）の無料回収キャンペーン」を開始しました。

Ⅱ. 活動内容

（１）八幡西エコフェスタの開催

ア　資源ごみの無料回収

資源ごみの回収とエコ活動の啓発を目的として開始し、「古紙」「カン」「ペットボトル」の回収を毎年２回、開催しています。

資源ごみの回収を通して、地域一体となって、３Ｒ活動の浸透を図っています。

イ　地域参加型イベントへと成長

資源ごみの回収と同時に、ステージイベントや抽選会などを行う地域参加型のイベントへと規模が拡大してきています。

地域の方が、楽しめるイベントに成長することで、３Ｒ活動をより多くの方に知ってもらう機会が増え、定期的な地域のイベントとして根付いてきています。

ウ　地域への還元

八幡西エコフェスタで生まれた資金は、その一部が、穴生・竹末・引野の３地区のまちづくり協議会への義援金として贈呈され、地域の活性化のために活用されています。

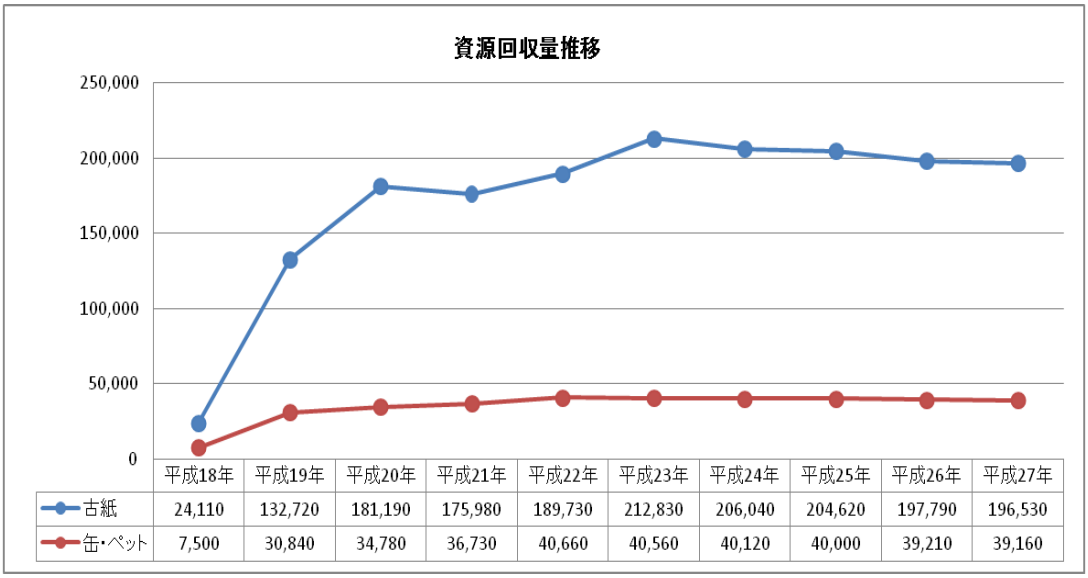
□山笠の運営　など

（２）スーパーで資源ごみの無料回収

キャンペーンに合わせて、地域のスーパーマーケットの協力により、店頭に回収袋を設置し、資源ごみの回収を行っています。

Ⅲ. 活動の実績又は成果

地域の祇園山笠競演会の青年会が中心となり、３つのまちづくり協議会、自治区会、一般企業や小・中学校の協力を得て実施した結果、資源ごみの回収が地域へ浸透してきました。更には地域のつながりを通じて、地区外の自治会等から協力や指導依頼の要請が来ています。



	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
古紙	24,110	132,720	181,190	175,980	189,730	212,830	206,040	204,620	197,790	196,530
缶･ペット	7,500	30,840	34,780	36,730	40,660	40,560	40,120	40,000	39,210	39,160

■表彰歴

平成 26 年　第８回北九州市 3R 活動推進表彰　3R 活動推進賞（リサイクル賞）

平成 27 年　福岡県循環型社会形成推進功労者知事表彰

今後も更に、地域との連携を強固なものとし、３Ｒ活動をはじめとした地域一体型のエコ活動を、積極的に推進して参ります。

所在地　〒806-0044　福岡県北九州市八幡西区相生町 1-18（北九ネット合同会社内）

連絡先　TEL：090-4482-5210　e-mail：info@kitakyu-net.com

ＵＲＬ　http//www.kitakyu-net.com/member/detail/143

名　称：NPO 法人こすみんず

代表者：理事長　白井 義人

活動を開始した年月日：平成 17 年（2005 年）10 月

Ⅰ．活動を開始した背景

私たちの街福岡県飯塚市を流れる遠賀川は、福岡県の筑豊地区、中間市、北九州市、遠賀郡 67 万人の住宅地帯を流れる大河ですが、周辺からの家庭排水の流れ込みで水質の悪化が懸念されました。私たち NPO 法人こすみんずは、遠賀川をきれいにしたい気持ちから、家庭からの廃食用油の流れ込みに注目し、何とかこれを回収して資源化することを考えて設立した環境 NPO です。

Ⅱ．活動内容

（１）仕組みの概要

私たちは、家庭から排出される廃食用油を、各町内会と連携して集めるよう飯塚市に働きかけました。飯塚市高田にある障がい者福祉サービス事業所竜王の里が廃食用油を集め、バイオディーゼルを作っておられることを知り、地域で集めた油の回収とそれをバイオディーゼルに換えることをお願いしました。飯塚市はそのバイオディーゼルを買い、市のごみ収集車の燃料にしました。

バイオディーゼル製造風景

（２）全ての関係者が得をする仕組み

この仕組みは、全ての関係者が得をする仕組みです。市民は、通常、廃食用油の処理には、油の固形剤を買って固めたり、新聞紙に浸みこませ、燃えるごみとして出す必要があります。お金も手間もかかります。しかし、地域で回収できれば、手間やお金が助かります。竜王の里さんは障がい者のみなさんが収集運搬やバイオディーゼルづくりを手伝うことで、働く場が与えられます。市は竜王の里さんからバイオディーゼルを安く買うことができます。

遠賀川での廃油回収イベント

また、バイオディーゼルは植物油からできていて、化石燃料ではありません。植物は燃えて炭酸ガスになっても、お日様の力（光合成）で元の植物ができるので、地球温暖化の原因になる炭酸ガスを増やしません。なので、環境にやさしい燃料なのです。ですから、みんながそれぞれ得をしながら環境を守ることもできるのです。

（３）幼稚園や小学校での取組

最近は、市と協力して、その植物の油を幼稚園や小学校の協力を得て作ってもらい、小さいころから、車やトラックは石油からできるガソリンや軽油だけで走るのではなく、植物の力、すなわち、お日様の力を借りて走らすこともできることを啓発する運動も進めています。

Ⅲ．活動実績又は成果

（１）廃食用油回収について

廃食用油回収については、年を経るごとに増加しています。小中学校で自主的に回収しているものを除き、平成 25 年度に市役所、各自治会、町内会９か所であった回収場所が、年々増え、現在、18 か所と倍増しました。また、回収量(※)も平成 25 年度に 27,275ℓ であったのが、昨年度は 29,085ℓ に増加しています。この活動を通じ、家庭から流れたかもしれなかった廃食用油を回収して、遠賀川が汚れることを防ぎ、ごみ焼却場に送られていたごみ（廃油）の減少に役立ったと考えています。
（※竜王の里さんが障がい者の皆さんと一緒に集められた分も含まれます。）

（２）菜の花栽培と菜種油しぼり活動

バスやトラックが使用する軽油は植物が作る油からでもできます。植物油は、化石資源である石油の枯渇や地球温暖化を防止することができます。これらのことを小さいころから子供たちに理解してもらうため、平成 25 年度から、保育園、小学校、地域の老人会とも連携し、休耕田に菜の花を植え、収穫した菜種からみんなが一緒になって菜種油を搾る取組を始めました。

（３）成果の広報活動

これらの成果は、飯塚市が主催する遠賀川の清掃活動である「I Love 遠賀川」、飯塚市環境教育推進大会である「エコスタいいづか」で私たちこすみんずから報告しています。

受賞歴

平成 23、25、26、27 年度　エコスタいいづか　エコスタいいづか賞（飯塚市）
平成 24 年度　エコスタいいづか　期待度部門賞（飯塚市）
平成 24 年度　ふくおか共助社会づくり表彰（福岡県）
平成 27 年度　福岡県循環型社会形成推進功労者知事表彰

保育園児との菜種の種まき

小学校での菜種油の勉強会

所在地　〒820-0054　福岡県飯塚市伊川 784-1

連絡先　e-mail：shirai@life.kyutech.ac.jp

名　称：ボランティア団体　おもちゃ病院伊都国

代表者：波多江 保彦

活動を開始した年月：平成 19(2007)年９月
(平成 19 年 10 月の「子どもフェスタ in まえばる」でのおもちゃ病院開設を控えて団体を設立)

Ⅰ．活動を開始した背景

壊れてしまった大事なおもちゃが生き返ってまた遊べるようになるのは、子どもたちにとってはとても嬉しいことで、そんな子どもの笑顔が楽しみな同好の士４名が集まり、平成 19 年の前原市(現糸島市)子どもフェスタ会場で、壊れたおもちゃを無償修理する「おもちゃ病院」を開設して好評を博しました。この「おもちゃ病院」は、「使い捨ての時代に、ものを大切にする優しい心を育む」と評価されるとともに、「環境の３Ｒ」にも繋がる(*1)と評価されて、翌年の環境フェスティバルでも「おもちゃ病院」を開設しました、それ以来 毎年活発な活動を続けています。

*1：壊れても捨てない(リデュース)、修理して再使用(リユース)、修理不能は部品取り･資源ごみ(リサイクル)

Ⅱ．活動内容

修理(Repair)でゴミR

（１）「おもちゃ病院」活動

「おもちゃ病院」は、壊れたおもちゃを無償修理する活動で、「環境の３Ｒ」をもう一つのＲ（Repair:修理する）で支えていることになります。

現在は、糸島市内で毎月定期的に「おもちゃ病院」を開設しているほかに、文化祭などの地域行事での出張開設を含めて、１年間に 30 回くらい「おもちゃ病院」を開設しており、子ども達の健全育成と環境意識の啓発に寄与しています。

（２）「おもちゃ修理体験学習」活動

おもちゃ修理体験

小中学校総合学習の授業「考えようエコな生活！」では、子どもたちが自宅から持ち寄った壊れたおもちゃを、自ら修理する体験学習を指導しており、平成 20 年以来５校で 13 回の実績があります。

学習形式は４～５名の班学習で、各班を担当する２～３名のおもちゃドクター･ナースが、「考えさせる･相談に乗る･やってみせる･作業させる･手助けする･できたら褒める」 ステップで、「リデュース→治してリユース」を自らの体験を通して実感させています。

この活動は市教委や実施校のご理解を得て、45 分×２の授業時間内に実施しています。

（３）「かえっこ×おもちゃ病院」活動

かえっこ×おもちゃ病院

子ども同士の不要おもちゃ交換ゲーム「かえっこ(*2)」と「おもちゃ病院」を同じ会場で同時に開催して「環境の３Ｒ」の相乗効果を高めています。

*2：不要になったおもちゃを会場に持ち込み(リデュース)、おもちゃの程度に応じたポイントに交換する。会場には他の子どもが持ってきたおもちゃがポイントを表示して陳列してあり、その中から自分の欲しいおもちゃを手持ちのポイントの範囲で手に入れる(そのままリユース)というイベント。

単独開催の「かえっこ」では、持込むおもちゃは壊れていないものに限られますが、「かえっこ×おもちゃ病院」の場合は、「おもちゃ病院」で修理するので壊れていても持込みＯＫで、「リデュース→そのままリユース/治してリユース」を体験できるようになっています。

寄付受付ボックス

（４）「おもちゃ箱」

個人宅に眠っている不要おもちゃを寄付してもらい、「おもちゃ病院」で点検･整備して育児施設や福祉施設に寄贈して喜ばれています。

施設寄贈に適さない種類のおもちゃは、上記の「かえっこ×おもちゃ病院」の陳列用に回して、リデュース→点検リユース/治してリユースを支援しています。

不要おもちゃの寄付は、糸島市内に常設のボックスで常時受け付けているほか、開設中の「おもちゃ病院」会場でも受け付けています。

Ⅲ．活動の実績または成果

（１）「おもちゃ病院」活動

平成 19 年の創立当初は不定期な出張開設でしたが、翌年からは糸島市内の公共施設１か所で隔月の定期開設を開始し、現在では市内２か所で毎月定期開設を実施しており、年間開設数は約 30 回に及んでいます。最近の年間修理依頼数は 300 個以上で、４年間では約 1,000 個の「リデュース→治してリユース/修理部品取りリサイクル」が実現したことになります。子どもにとって大事な宝物である壊れたおもちゃが、無償修理で生き返った喜びは、子どもたちに物を大切にする優しい心を育み、子どものうちから「リデュース→治してリユース」を体験することは、大人になっても生き続けることでしょう。

そんな子どもの喜ぶ姿は保護者の共感を呼び、保護者にも「リデュース→治してリユース」意識が波及している効果がうかがわれます。

（２）「おもちゃ修理体験学習」支援活動

平成 20 年度以来５校で 13 回の実績があり、平成 29 年度以降も継続して実施の予定です。

子どもたちにとって壊れた物を修理するのは初めての体験で、感想文から環境意識が育まれていることが読み取れます。また、この体験が発展して、子どもたちが家庭でも壊れた物は何でも治して使う行動に出るようになり、子どもの行動が家族にまで波及しています。

この活動は教育界でも「生きた環境教育」として注目されており、平成 25 年度には朝日新聞社が全国規模で募集した「朝日のびのび教育賞」を受賞しています。

（３）「かえっこ×おもちゃ病院」活動

平成 21 年以来 糸島市や福岡市で累計 19 回の実績があり、平成 29 年度以降も継続して実施の予定です。「かえっこ×おもちゃ病院」には、一度に 300 組以上の親子が参加されるので、年間に約 1.000 組の親子が「リデュース→そのままリユース/治してリユース」を体験されていることになり、地域社会の環境意識啓発の動機付けになっています。

（４）「おもちゃ箱」活動

平成 24 年の新聞記事や TVQ 九州放送で「地域内お下がり循環」と紹介されたほか、口コミでも広く知られるようになって、地域社会のお下がり循環意識(リデュース→点検リユース/治してリユース)機運が高まり、平成 24 年以来 育児施設や福祉施設に寄贈したおもちゃは 300 個を超えています。

施設寄贈に適さない種類のおもちゃは、1 年間に数百個も溜まるので、上記の「かえっこ×おもちゃ病院」の陳列用のほかに、「かえっこ」を単独で開催される他団体に提供しています。

おもちゃ病院

受賞歴など

(1) 平成 21～23 年度　地域貢献助成事業団表彰（全労済）
(2) 平成 22 年度　福岡県市民教育賞（地域社会教育賞）
　　（福岡県市民教育賞実行委員会ほか）
(3) 平成 24 年度　ふくおか共助社会づくり表彰(地域貢献活動部門賞)（福岡県）
(4) 平成 25 年度　朝日のびのび教育賞(おもちゃ修理体験学習)（朝日新聞社）
(5) 平成 25 年度　「70 歳現役社会づくり」施策の規範(ホームページ・ポスター・チラシ)（福岡県）
(6) 平成 26 年度　糸島市社会福祉大会表彰(優秀賞)（糸島市社会福祉協議会）
　　ふくおか地域づくり活動賞（地域づくりネットワーク福岡県協議会）
　　「親切会」善行賞（日立グループ）

所在地　〒819-1104　福岡県糸島市波多江中町 512 番地

連絡先　TEL：080-8390-8154(事務局)、090-9139－7186(代表者)

ＵＲＬ　http://www.geocities.jp/omotya_itokoku/

名　称：特定非営利活動法人　熊本県有機農業研究会

代表者：理事長　青木 悦朗

活動を開始した年月：平成 22 年（2010 年）４月
（昭和 49 年（1974 年）設立、平成 12 年（2000 年）NPO として再編）

Ⅰ．活動を開始した背景

昭和40年代、公害問題や環境汚染、農薬による農村の健康被害を受け「いのちと土を守る運動」が始まり、昭和49年、医者・研究者・農家・消費者等、多彩な分野の人々の参加で「熊本県有機農業研究会」が設立されました。

有機農業は農業の自然循環機能を増進しつつ、農業生産に由来する環境への負荷を低減するものです。そのような有機農業の認知度の向上と、一般消費者にも循環型の暮らしを取り入れてもらうため、普及啓発を草の根の活動として実施していくこととなりました。

また、平成12年からは、楽しみながら有機農業や循環型の暮らしに触れてもらおうと、全国に先駆けてオーガニックフェスタ「ゆうきフェスタ」を開催。平成14年以降は、実行委員会の申合せで多くの出展者がリユース可能な食器を使用していましたが、回を重ね規模が大きくなるにつれ、各出展者が用意するリユース食器では追いつかなくなり、世間一般のイベント同様ごみの増大が目立つようになりました。そこで平成22年には、会場全体でフィルムをはがすタイプのリサイクル食器を導入。さらに平成24年からは、リサイクル食器よりも環境負荷の小さいリユース食器を会場全体で導入することを決定しました。

Ⅱ．活動内容

（１）ゆうきフェスタでの環境活動

今年で17回目を迎えるゆうきフェスタ。近年では出展団体約90、来場者約7,000名、ボランティア約100名というイベントとして成長してきています。平成24年以降、リユース食器を毎年5,000個程度使用し、CO2の削減とごみの大幅な削減を実現しています。リユース食器は単にレンタルするだけではなく、授産施設に食器洗浄を依頼するシステムを作り、循環型社会の構築に向けてリユース食器を使いやすい環境を整備しています。

平成25年以降は、ステージ電源を独立型太陽光パネルでまかなうことでCO2の削減に取り組み、リユース食器と併せて、来場者に向けた環境面での普及啓発を行っています。

（２）菜の花プロジェクト

菜の花栽培から廃食油の回収とBDF（バイオディーゼル燃料）の農業機械での使用を進めることにより、自然循環機能を増進しつつ、農業生産に由来する環境への負荷を低減する有機農業の普及啓発を続けています。会員農家による菜の花栽培、菜種収穫、菜種油（BDF）精製、農業機械の稼働、そして次の菜の花栽培――という循環の輪を形成し、化

石燃料に頼らない持続可能な農業の形を示すことに成功しています。また、ゆうきフェスタやプロジェクトメンバーによるイベント等において、本プロジェクトについて参加者に啓発する体験型の講座や展示等を継続して実施しています。

（３）生ごみ循環プロジェクト

地産地消の基材・竹チップを使った「いのちの循環・生ごみコンポスト」の普及活動を行っています。主に熊本市の公民館講座の講師を年に10回前後務め、受講者数は年間に約150名にのぼります。家庭で気軽に取り組めるコンポストは、調理の際の生ごみや食べ残しを堆肥化することができ、ごみの減量そして循環型の暮らしをかなえるものです。自然の恵みによる農産物、台所での調理・食卓での食事、堆肥化によりまた田畑に還り農産物が育つ――という循環を肌で感じることができ、循環型社会の形成に向けた意識の向上に大いに役立ちます。また、基材には地域に豊富にあり再生可能資源である竹チップを基材とすることを提案し、熊本市の公民館講座においても採用されています。

Ⅲ．活動の実績又は成果

リユース食器を使用することで、ごみの削減はもちろん、繰り返し使用すればするほど環境負荷の低減につながります。ライフサイクルアセスメント（LCA）の結果、リユースカップの使用回数による環境負荷の低減効果は、固形廃棄物は4.7回以上、CO2排出量は2.7回以上、水消費量も2.7回以上、エネルギー消費量は6.3回以上再利用すると、紙コップよりも環境負荷が低減されます。（リユース食器ネットワークより　http://www.reuse-network.jp/what/）

＜ゆうきフェスタでのリユース食器使用数＞

平成24年　器・カップ類：3,225　箸・スプーン：2,655　計：5,880
平成25年　器・カップ類：4,264　箸・スプーン：2,850　計：7,114
平成26年　器・カップ類：3,140　箸・スプーン：2,075　計：5,215
平成27年　器・カップ類：3,420　箸・スプーン：2,390　計：5,810

●受賞歴

平成27年 6月 1日　第24回くまもと環境賞　くまもと循環型社会賞（熊本県）
平成28年 5月27日　平成28年度地域環境保全功労者表彰（環境省）
平成28年10月14日　第30回肥後の水とみどりの愛護賞（公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金）

所在地　〒861-8030　熊本県熊本市東区小山町1879-3

連絡先　TEL：096-223-6771　e-mail：info@kumayuken.org

ＵＲＬ　http://www.kumayuken.org
http://www.facebook.com/kumayuken

３R活動推進功労（個人）

氏名：西本　勝次

所属：鹿島市環境衛生推進協議会

活動を開始した年月：平成 22 年（2010 年）４月１日

Ⅰ．活動を開始した背景

佐賀県鹿島市職員として、環境関係の部署に勤務していた時があり、その時に、現在の鹿島市環境衛生推進協議会を立ち上げ事務局として活動をいたしました。退職後、(財)鹿島市シルバー人材センター（現（公社）鹿島市シルバー人材センター）の事務局長として勤務していた時、家庭等から出る庭木の剪定屑の処理について相談を受け、何とか堆肥化できないかと協議を重ね、剪定屑をチップ化し堆肥化する機械を導入し、同センターで堆肥化を推進しました。平成22年４月から一市民として鹿島市環境衛生推進協議会の役員となり、翌年の平成23年４月からは３年間、同協議会の会長として活動をいたしました。現在は、副会長を務めております。

当時の鹿島市では、廃棄するごみの増加による環境悪化が顕著な問題として浮かび上がっており、燃焼するごみの量を減少させ、地球温暖化を防止し循環型社会を形成する一助として、特に「ごみの減量化」とともに、「ごみの分別化」「地区別資源ごみ回収」に主に取り組みました。

Ⅱ．活動内容

（１）ごみ減量化の取組

ごみの減量化の具体的対策としては、シルバー人材センター事務局長も兼ねていた時に、剪定枝葉のチップ化による堆肥化を提案し取り組むよう推進・指導をしました。

また、市の環境部署へ働きかけ、家庭の生ごみ分別収集のテストを60世帯で開始しました。そのテストによりごみ減量化に寄与することが確認され、更に市環境部署へ働きかけ、地区単位での活動として発展させ、今後更に拡大をお願いしているところです。現在、分別した生ごみは堆肥化をしており、地区の協力世帯には無料配布をし、それ以外の方へは原価で配布していますが大変好評です。

更に、毎年、年２回レジ袋の減少のため市内のスーパー店頭でマイバッグキャンペーンの啓発活動を行っており、回を追うごとに買い物袋持参者が増えております。

（２）海の森事業

山に広葉樹を植樹することにより森が活性化し水が浄化され、きれいな川となり海へと流れ海の川の環境を良くしていくということを実体験し、循環型社会を改めて考える良い機会として「海の森事業」を同協議会が主催者となり、毎年植樹・下刈りを開催していますが、学校単位や、職場単位での参加者も多く、市外からの参加者も増えています。また、平成27年５月には、新籠地先の干潟が「肥前鹿島干潟」としてラムサール条約湿地に登録されたことにより、水鳥や渡り鳥が安心して過ごせるように、定期的な海岸清掃や不法投棄パトロールを行っています。

環境だより

マイバッグキャンペーン

海の森事業（下刈り）

Ⅲ．活動の実績又は成果

（１）生ごみ減量化

生ごみの減量化に向けて、ぼかし（生ごみにふりかけて優良な堆肥を作るために、米ぬかと発酵細菌を混ぜ発酵させたもの）をサンプルとして市役所内で無料配布しています。

生ごみ分別収集について、平成27年度の実績は年間で27ｔ・１世帯当り約190㎏の可燃ごみの減量に成功し、約８ｔの生ごみ堆肥を作成しました。今年度も対象地区を増やしており、更なる生ごみの分別化が期待できると思っております。

（２）講演会等

地球温暖化や地球環境に対する関心を高揚させるため、身近な話題による環境教育として毎年環境に関する講演会等を開催しており、その会場でぼかし・生ごみ堆肥の無料配布を行ったりしておりますが、300人規模のホールに500人以上の入場者があり大変な好評です。更に多くの市民の皆様に地球の環境について関心を持っていただくため、持続可能な環境教育の場として講演会等を続けていきたいと考えております。

（３）レジ袋減少

レジ袋減少のため毎年２回程度マイバッグキャンペーンを行うことで、市民への環境問題提起、周知・啓発が定期的にできており、レジ袋の削減に大いに役立っています。「不要なものはもらわない・断る」リデュースの原点と言っても良いと思います。

（４）環境衛生推進協議会の取組

「環境問題について市民生活に密接に関連することについて積極的に関与する」という理念の下、同協議会会長の時に地区の老朽化したごみステーションの延命のため、補修や修繕に係る費用補助の創設、また、住民の安全の為近年増加しているスズメバチ等の危険生物駆除に係る費用補助の創設について尽力いたしました。各補助金は、他市町村ではあまり見られない事例であると思います。

そのほか、年３回「環境だより（広報誌）」を発行しており、分別の仕方・不法投棄防止・動物愛護に関することなど、常に市民へ向けて情報発信をしております。

委員活動等

・鹿島市環境衛生推進協議会（平成 22 年～）
・鹿島市環境審議会委員（平成 25 年２月～平成 27 年２月）

所在地　〒849-1312　佐賀県鹿島市大字納富分 2643 番地 1（鹿島市役所建設環境部環境下水道課）

連絡先　TEL：0954-63-3416　　e-mail：kankyou@city.saga-kashima.lg.jp

参　考　資　料

資料１　循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

資料２　平成23～27年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞者一覧

資料１　循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領

Ⅰ　目的

本制度は、総物質投入量・資源採取量・廃棄物等発生量・エネルギー消費量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、熱回収（エネルギーリカバリー）の適切な推進、廃棄物の収集運搬・処分事業、浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造等の事業、ねずみ・衛生害虫等の防除及び清掃等による生活環境の改善、廃棄物処理技術に関する研究等に顕著な功績があった個人、企業、団体又は地区を表彰し、その功績をたたえ、もって循環型社会の形成、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理の推進その他生活環境の保全に資することを目的とする。

Ⅱ　表彰の対象

次の１から６までのいずれかに該当する個人、企業、団体又は地区を表彰の対象とする。

ただし、春秋叙勲による勲章受章者、環境衛生事業功労者厚生大臣表彰、生活環境改善事業功労者等環境大臣表彰を受けた者（地区）を除く。

１　循環型社会形成推進功労者

先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体であって、次のいずれかに該当するもの。

（１）３Ｒ活動推進功労（個人）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する者。

ただし、これらの活動を廃棄物の収集運搬・処分事業として行う者を除く。

（２）３Ｒ活動推進功労（団体）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきたもの。

ただし、公益法人（社団法人、財団法人）、営利を目的とする団体及び宗教上の教義を広める活動を行う団体を除く。

（３）３Ｒ活動優良企業（企業）

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分を実現した企業であって、次のいずれかに該当するもの。

イ　その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ロ　その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処分の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ハ　廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処分の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図る企業。

２　一般廃棄物関係事業功労者

一般廃棄物の収集運搬業若しくは処分業に従事し、一般廃棄物の適正処理の確保に顕著な功績のあった者又は一般廃棄物処理に関する公益法人等において当該事業の向上及び発展に顕著な功績があった者で、次のいずれにも該当するもの。

（１）当該年４月１日において、一般廃棄物の収集運搬業若しくは処分業又は一般廃棄物の処理に関する事業を行う公益法人等における従事年数が２０年以上であって、かつ、年齢が満５０歳以上であること。

ただし、一般廃棄物の収集運搬又は処分を業とする者（従業者を含む。）でない者にあっては、その従事年数が１０年以上であること。

（２）原則として、同様の功績について都道府県知事の表彰（これに準じる表彰を含む。）を受けたことがあること。

３　産業廃棄物関係事業功労者

産業廃棄物の収集運搬業若しくは処分業に従事し、産業廃棄物の適正処理の確保に顕著な功績のあった者又は産業廃棄物処理に関する公益法人等において当該事業の向上及び発展に顕著な功績があった者であって、次のいずれにも該当する者。

（１）当該年４月１日において、産業廃棄物の収集運搬業若しくは処分業又は産業廃棄物の処理に関する事業を営む公益法人等における従事年数が２０年以上であって、かつ、年齢が満５０歳以上であること。

ただし、産業廃棄物の処理を業とする者（従業者を含む。）でない者にあっては、その従事年数が１０年以上であること。

（２）原則として、同様の功績について都道府県知事の表彰（これに準じる表彰を含む。）を受けたことがあること。

４　浄化槽関係事業功労者

浄化槽の設置、保守点検、清掃又は製造等の事業に従事し、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正処理の推進若しくは浄化槽の普及又は浄化槽の機能の向上に顕著な功績のあった者又は浄化槽によるし尿及び雑排水の適正処理の推進に関する公益法人等において当該事業の向上及び発展に顕著な功績があった者であって、次のいずれにも該当するもの。

（１）当該年４月１日において、浄化槽の設置等の事業又は浄化槽によるし尿及び雑排水の適正処理の推進に関する事業を営む公益法人等における従事年数が２０年以上であって、かつ、年齢が満５０歳以上であること。

ただし、浄化槽関係事業を業とする者（従業者を含む）でない者にあっては、その従事年数が１０年以上であること。

（２）原則として、同様の功績について都道府県知事の表彰（これに準じる表彰を含む。）を受けたことがあること。

５　生活環境改善功労者及び生活環境改善模範地区

（１）生活環境改善功労者

ねずみ、衛生害虫等の防除及び清掃等生活環境改善行政に対する協力又は地域の環境美化等に顕著な功績があった者であって、次のいずれにも該当する者。

イ　当該年４月１日において、ねずみ、衛生害虫等の防除及び清掃等生活環境改善行政に対する協力及び地域の環境美化に関する活動の従事年数が１０年以上であって、かつ、年齢が満５０歳以上であること。

ロ　原則として同様の功績について都道府県知事の表彰（これに準じる表彰を含む。）を受けたことがあること。

（２）生活環境改善模範地区

ねずみ、衛生害虫等の防除及び清掃等の地域の環境美化その他生活環境の改善を積極的に推進して顕著な成果を上げている地区であって、次の各号に該当するもの。

イ　住民の自主的、組織的な実践運動を基盤として計画的に改善を実施しており、その取組が他の地区の模範となるに足りるものであって、その成果が計数的に把握されているものであること。

ロ　生活環境向上のための実践運動を開始してから、当該年４月１日までに少なくとも７年以上経過しているものであること。

ハ　地区の大きさは過去３か年において、少なくとも農村部にあっては戸数１００戸以上又は人口５００人以上、都市部にあっては戸数２００戸以上又は人口１０００人以上（ただし、夜間定住人口の少ない区域にあっては店舗又は事業所数が２００か所以上で、かつ、就業人口１０００人以上）であること。

ニ　対象となる地区が、原則として、同様の功績について都道府県知事の表彰（こ

れに準じる表彰を含む。）を受けたことがあること。

6　廃棄物・浄化槽研究開発功労者

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分又は浄化槽によるし尿及び雑排水の適正処理に関する研究開発において、学術的及び実用的に広範かつ有益な成果を上げ、その成果によって廃棄物処理事業又は浄化槽関係事業の発展に顕著な功績があった者。

Ⅲ　被表彰者の決定

1　被表彰者決定の手続

被表彰者（又は団体）は、都道府県又は３Ｒ活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。

被表彰者の推薦については、Ⅱに定める被表彰者の功績の区分ごとに別紙様式１から８により、別途定める推薦者数の範囲内で毎年７月１日まで（平成１８年度に限り８月１日まで）に大臣あて行うものとする。

2　表彰の方法

表彰の方法は、被表彰者の功績の区分別に表彰状を授与して行うものとし、その時期及び場所は、別途、被表彰者に通知するものとする。

別紙様式１

平成２８年循環型社会形成推進功労者推薦調書（個人用）

都道府県等名

推薦順位		(ふりがな) 氏名		性別		生年月日 及び年齢	４月１日現在 （満　　歳）
現住所	〒						
所属及び役職名							
概要							
推薦事項							

賞　　罰　　歴			略歴（功績に関係のあるもの）	
年　月　日	主　　体	賞罰の内容及び事由	期　　間	事　　項

活動年数（通算）　　年　　月

功　　績　　内　　容

※功績内容を、以下の項目に沿って記載すること。その際、活動現場、当該主体の活動が紹介された発刊物等の写真・画像を添えること。

１．活動の内容

・活動の内容を詳細に記載すること。

２．活動、取組対象の実績や効果

・活動、取組対象の活動実績、活動によって得られた効果（廃棄物の削減効果、省資源・省エネ効果、環境保全効果　等）を記載すること。

３．地域性

・実施主体の特性や活動内容を踏まえた活動範囲、他の主体・他の地域との連携、地域特性や地域固有の廃棄物問題を踏まえた活動　等を記載すること。

４．独創性

・当該主体で考案された独自の活動又は取組　等を記載すること。

５．先進性又は革新性

・当該活動又は取組の先進性又は革新性　等を記載すること。

６．波及効果又は啓発・教育効果

・他者の３Ｒ活動に与えた効果、啓発・教育活動　等を記載すること。

活動の状況（功績に関係のあるもの）	
期　　間	事　　項
所管課及び担当者	部（局）　　（電話　　－　　－　　） 課担当者

注１　「功績内容」欄は、なるべく詳細に記載すること。
　２　「推薦事項」欄には、功績の概要を５０字以内にまとめて記入すること。
　３　「賞罰歴」欄には道路交通法又は公職選挙法違反についても必ず記載すること
　　また、都道府県等におけるこの種の表彰制度が無い場合は「備考」として「表彰制度無し」と記載すること。
※　功績内容については、本様式にすべて記載すること。
　（功績内容については、概ね４ページ程度記載すること。なお選考では内容を精査の上、３Ｒ活動先進事例集等に掲載する予定。）
※　３以外の添付資料は選考外である。
これまでに環境大臣表彰の受賞歴がある場合には、その旨「活動の状況」の欄に記載すること

履　歴　書

ふりがな	
氏　名	印
生年月日　　年　月　日生(満　歳)	

本籍	
現住所	〒

年月日	事　項

※別紙様式１、３～６、８に添付すること。

別紙様式２

平成２８年循環型社会形成推進功労者推薦調書（団体・企業用）

都道府県等名

推薦順位		(ふりがな) 団体・企業名	
所在地	〒		
設立年月	年　　月		
概要			
推薦事項			
活動年数（通算）	年　　月		

功　績　内　容

※功績内容を、以下の項目に沿って記載すること。その際、活動現場、発刊物等の写真・画像を添えること。

１．活動の内容

・活動の内容を詳細に記載すること。

２．活動、取組対象の実績や効果

・活動、取組対象の活動実績、活動によって得られた効果（廃棄物の削減効果、省資源・省エネ効果、環境保全効果　等）を記載すること。

３．地域性

・実施主体の特性や活動内容を踏まえた活動範囲、他の主体・他の地域との連携、地域特性や地域固有の廃棄物問題を踏まえた活動　等を記載すること。

４．独創性

・当該主体で考案された独自の活動又は取組　等を記載すること。

５．先進性又は革新性

<table>
<tr><td colspan="3">・当該活動又は取組の先進性又は革新性　等を記載すること。

６．波及効果又は啓発・教育効果
・他者の３Ｒ活動に与えた効果、啓発・教育活動　等を記載すること。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動の状況（功績に関係のあるもの）</td></tr>
<tr><td>期　　間</td><td colspan="2">事　　項</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>所管課及び担当者</td><td colspan="2">部（局）　　（電話　　－　　－　　）
課担当者</td></tr>
</table>

注１　「功績内容」欄は、なるべく詳細に記載すること。
２　「推薦事項」欄には、功績の概要を５０字以内にまとめて記入すること。
３　特定非営利活動法人（ＮＰＯ）、企業においては定款を、その他の団体においては、団体規約等を添付すること。
※　功績内容については、本様式にすべて記載すること。
（功績内容については、概ね４ページ程度記載すること。なお選考では内容を精査の上、３Ｒ活動先進事例集等に掲載する予定。）
※　３以外の添付資料は選考外である。
※ これまでに環境大臣表彰の受賞歴がある場合には、その旨「活動の状況」の欄に記載すること

資料２　平成23～27年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞者一覧

平成23年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	北清企業株式会社	処理が難しいとされる新築系の廃石膏ボードを独自の技術によりグラウンド用ライン引き粉として再利用。
企業	東京都	サントリー食品インターナショナル株式会社、サントリービジネスエキスパート株式会社	PETボトルの水平循環の確立に向けて、使用済みPET ボトルの物理的循環利用に関する技術の飛躍的向上と、その利用拡大普及に貢献すると共に、併せて石油資源や電力消費量削減、CO2排出量削減にも大いに貢献が期待されるものである。
企業	神奈川県	株式会社横須賀軽金	生ゴミを肥料にし、その肥料を使用し農家が農作物を作り、その農作物を再び購入するという循環システムを運営することにより、ゴミの減量及び資源循環に寄与。
企業	神奈川県	日本電気株式会社 玉川事業場	自社製品のリユース・リサイクルと社員食堂生ゴミリサイクルによる廃棄物削減。
企業	長野県	株式会社恵那興業	平成11年に飯田市が環境都市宣言として計画した飯田市エコタウンの設立に協力するとともに自らの廃棄物の再資源化工場を設置し、循環型社会形成の模範的な事業の展開を図っている。
企業	長野県	株式会社イナック	長年にわたり多品目による廃棄物の分別・リサイクル化を推進しているほか、構内緑化植樹をはじめ地域清掃活動を通じて積極的に地域住民と交流し、廃棄物の減量化、再資源化、有効利用等に対する啓蒙を図っている。
企業	京都府	株式会社山本清掃	昭和24年の創業以来、60年余にわたって事業系一般廃棄物並びに産業廃棄物、資源物の分野全般において、収集・運搬事業、リサイクル等の中間処理事業を展開し、持って循環型社会の形成、廃棄物の減量その他、その適正な処理の確保に取り組んでいる。
企業	奈良県	株式会社積水化成品天理	場内発生廃棄物のゼロエミッション活動に取り組み、経年的に再資源化率99%以上を達成し、３R推進に貢献。
企業	広島県	広島ガステクノ株式会社	有機系廃棄物を有価物に変える連続乾留炭化処理装置の建設。
企業	徳島県	大塚製薬株式会社 徳島板野工場	廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを達成。県認定３Ｒモデル事業所として循環型社会形成推進に貢献。
企業	福岡県	株式会社大石物産	浄水汚泥を利用した園芸用培土を開発・販売し、廃棄物の循環利用システムの確立及び普及に貢献している。
企業	福岡県	コカ･コーラウエストロジスティクス株式会社北九州さわやかリサイクルセンター	飲料メーカー自身が事業活動で発生させた使用済み空容器及び廃棄自動販売機の再資源化に取り組んでいる。
企業	沖縄県	株式会社トリム	廃ガラスの発泡方式再生技術を確立かつ再資源化システムを構築し、普及を図っている。
団体	北海道	津別単板協同組合	合板を製造する過程で発生する様々な廃棄物を、燃料化や肥料化などによりバイオマス資源として利活用した。
団体	北海道	社会福祉法人清水旭山学園	地域の事業所から食品残さを回収し、養鶏飼料として自家使用することによりリサイクルシステムを形成。
団体	富山県	北加積児童クラブ	長年にわたり資源集団回収を実施するなど、地域ぐるみでごみの減量・リサイクル活動に積極的に取り組んでいる。
団体	石川県	リサイクルネットワークｉｎ小松	ＢＤＦ（バイオディーゼル燃料）製造をはじめとする廃棄物の減量化・リサイクル活動の先見性、独自性及び継続性（20年）を評価。
団体	岐阜県	岐阜県医師会協同組合	感染・非感染の医療廃棄物の減量化、３Ｒ推進、適正処理確保を通した循環型社会形成への貢献。
団体	岐阜県	大垣市環境市民会議	大垣市環境基本計画に基づき、市の望ましい環境像の実現を目的に設立され、環境に関する活動を行っている。
団体	京都府	八幡自動車処理事業協同組合	自動車リサイクル法施行以前から、廃自動車の処理に関する「利用券制度」を創設して環境保全に取り組んだ。
団体	鳥取県	鳥取県立米子南高等学校 家庭クラブ	校内のごみの分別回収、小学生への環境教育、オリジナルマイバッグの配布など地域密着型の取り組みを実施。
団体	鳥取県	鳥取県立境港総合技術高等学校	生徒会、福祉科、機械科、食品科、海洋科が特色を生かし、学校全体で地域に密着した循環型社会作りに貢献。
団体	鳥取県	三朝温泉観光協会	町内の旅館、病院等から出る生ごみ及び廃食用油を集めて、堆肥とＢＤＦ燃料を製造し循環利用している。
団体	福岡県	グリーンコープ生活協同組合ふくおか	ふくおかグリーンコープ生協の４R運動の推進は、循環型社会をめざして４R運動の展開を先進的に進めてきた。
個人	岩手県	八重樫 重夫	各家庭を訪問し分別や資源回収の徹底を促し、ごみ減量とリサイクルを定着させ、循環型社会の形成に寄与。
個人	神奈川県	山岡 憲一	リーダーとして技術者として環境マネジメントシステム（EMS）を機能させ、産廃発生量を大幅に削減し、その成果を社外にも普及した。
個人	岡山県	虫明 清一	日本で唯一の公益法人としてユニフォームのリサイクル事業を実施する社団法人環境生活文化機構を設立し、約15年の長きにわたり理事長及び特別会員として、積極的に繊維リサイクルの普及・促進に貢献している。
個人	徳島県	森 光子	長年にわたり地域の環境美化及びゴミの減量化・リサイクル推進等に意欲的に取り組んだ功績が顕著であるため。
個人	大分県	深道 春男	大分県レジ袋削減検討会議会長として平成21年6月にレジ袋無料配布中止の取り組みを県内一斉にスタートさせた。

平成24年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	株式会社常呂町産業振興公社	昭和54年からホタテの貝殻を漁協から購入し、土壌改良材に加工処理し、農協を通じて組合員に販売し、地域における資源循環システムを形成している。
企業	北海道	農事組合法人細澤牧場、 株式会社アレフ	食品加工工場から排出された生ごみと牛糞からバイオガスを発生させ、輸送用ボンベに圧縮充填し、そのガスを(株)アレフの食品加工工場のボイラーの熱源として利用し、リサイクルループを形成している。
企業	北海道	株式会社山内組	建設現場から発生するコンクリート、アスファルト、木くずなど、廃棄物の90%以上を再資源化している。
企業	岩手県	株式会社環境保全サービス	独自の技術・装置を開発し、再利用が困難な廃ガラスの循環利用の拡大に貢献するとともに、普及に尽力している。
企業	岩手県	新日本製鐵株式会社　棒線事業部　釜石製鉄所	間伐促進による森林資源の再生のため、林地残材などの廃棄物をバイオマス石炭混焼発電で利用することにより、有価物として利用されるシステムを構築している。
企業	岩手県	塩野義製薬株式会社金ヶ崎工場	事業活動における温室効果ガス排出量や廃棄物発生量の目標を設定して全社的に取組み、11年間にわたり廃棄物の再資源化率90%を維持している。
企業	岩手県	盛岡セイコー工業株式会社	「廃棄物削減」という環境方針のもと、時計生産における不良品の発生率の抑制、製造工程で用いる運送用トレーの再使用、形成部品の外枠等の再利用を進め、廃棄物の最終処分量ゼロを達成している。
企業	栃木県	株式会社小松製作所小山工場	2000年11月より11年間継続して産業廃棄物のゼロエミッション活動を維持継続するとともに、社員の全員参加による徹底的な分別活動を実施している。
企業	東京都	サントリーホールディングス株式会社、協栄産業株式会社	日本初のメカニカルリサイクルによる再生ＰＥＴ樹脂100%の飲料用ＰＥＴボトルを導入するとともに、最薄ラベルの取組みによる資源有効活用を実施している。
企業	東京都	株式会社アルフォ(城南島飼料化センター)	年間3万トンの生ごみと動植物性残さを、廃食油を熱触媒として用いる製造方法により、配合飼料の原料を製造し、脱焼却によるCO2排出量の削減と資源循環を進めている。
企業	東京都	株式会社熊谷組	全作業所においてゼロエミッションを目指し、作業所ごとに計画書や報告書を作成し、良い取組みは全社的に水平展開するとともに、社内表彰制度を設けるなどして推進している。
企業	東京都	東京ボードグループ東京ボード工業株式会社	「東京ボード工業株式会社」廃木材をパーティクルボードの原料として再生利用することにより、建設現場や各工場での木材ゼロエミッションを達成している。
企業	新潟県	株式会社日本アクシィーズ	昭和40年の創業以来、一般廃棄物や産業廃棄物の収集運搬、リサイクル等の中間処理・資源再生事業を展開し、廃棄物の適正処理及び減量化の推進、再生資源の有効利用を進めている。
企業	福井県	株式会社ガイアートＴ･Ｋ 福井合材工場	道路舗装材（アスファルト合材）の製造過程において発生する廃棄油や排気熱の再利用など天然資源の消費抑制に努めるとともに、工場から排出される一般廃棄物の減量にも取り組んでいる。
企業	長野県	株式会社みすず工業	事業所から排出される廃酸、廃アルカリ・汚泥等を無害化・減量化を進め、廃液から資源回収を進めるリーダー企業として事業展開をしている。
企業	長野県	直富商事株式会社	昭和50年の会社設立以来、「全ての廃棄物を再資源化」をモットーに、産業廃棄物収集運搬業・処分業及び金属スクラップ・廃OA機器類・廃プラスチック類・廃食用油等のリサイクル事業を推進している。
企業	岐阜県	松岡コンクリート工業株式会社	溶融スラグ・鉄鋼スラグを用い、一部を砂と置換してコンクリートの二次製品を製造・販売するとともに、CO2削減・遮熱塗料によるヒートアイランド対策も進めている。
企業	静岡県	NECアクセステクニカ株式会社	工場排出廃棄物の削減及び製品回収リサイクルシステムを実現するとともに、掛川市と協働で、同社を会場に親子環境学習会や環境学習の指導者養成の学習会を実施している。
企業	愛知県	株式会社ダイセキ	全国規模での資源循環を推進し、リサイクル製品受入企業との製品規格の共同開発を行うとともに、排出事業者への使用薬品変更や分別管理依頼等を積極的に行い、排出事業者、リサイクル製品受入事業者3者がメリットを受ける仕組みをつくっている。
企業	兵庫県	森永乳業株式会社神戸工場	コーヒーかすはボイラー燃料として、液体残渣、排水汚泥はメタン発酵させてメタンガスとして取り出し、熱利用を進めるなどにより、廃棄物の発生量を大幅に削減している。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	北海道	循環（クルクル）ネットワーク旭川	紙パックの回収運動をきっかけに行政、市民を巻き込んだ廃棄物減量化運動に発展、また、学校や福祉施設などでのリサイクルに関する実践講座を行い資源有効活用の普及啓発活動も進めている。
団体	北海道	旭川消費者協会	昭和47年から始めた過剰包装削減の運動は、平成15年には旭川スーパーマーケット協会や市の協力のもと、全市内の運動として展開するようになった。その他、リユース講座や出前講座、消費者セミナーなども実施している。
団体	山形県	ごみ減量・もったいないねット山形	「もったいない」を合い言葉に、市民・事業者・行政の3者により運動を進め、市内スーパーでの「レジ袋の無料配布の一斉中止」の中心的な役割を担うなどし、県内外に大きな影響を与えた。
団体	栃木県	大平町ごみを考える会	約10年にわたり「マイバックの持参」運動を展開し、市内の多くの小売店を巻き込んで、定期的な「マイバック持参デー」を展開するとともに、公民館などでの出前講座で３Ｒの普及啓発活動も行っている。
団体	埼玉県	JB環境ネットワーク会	大手飲料事業者18社が連携して設立し、飲料空容器の資源循環の実施をするとともに、工場見学や環境出前講座、作文コンクールやシンポジウムを開催し環境教育の普及活動も進めている。
団体	富山県	射水市立中太閤山小学校	34年間、アルミ缶などの資源集団回収を進めるとともに、地域住民と一緒になって清掃美化活動を行うなど、家庭や地域社会と連携した活動を継続的に行っている。
団体	石川県	特定非営利活動法人いきいき	古着、古着物を回収し、「裂き織り」製品を作成販売するとともに、小中学校や町内店舗に回収ボックス設置して牛乳パックの回収を行っている。
団体	鳥取県	社会福祉法人遊歩（ゆうほ）　吾亦紅（われもこう）	地域から牛乳パックや廃食用油を集め、バイオディーゼル燃料やハガキ等を製造、老人福祉施設での紙すき教室も開催している。
団体	鳥取県	伯耆町立岸本小学校	給食センターと連携し食品残さを堆肥利用。また牛乳パックからハガキを製作するなど環境学習についての取組も実施している。
団体	岡山県	特定非営利活動法人　エコネットワーク津山	ごみの減量化と再利用を目的として設置されている施設運営や環境イベントを通じて、ごみの減量化やリユース、リサイクルの必要性等を広く市民に積極的に啓発している。
個人	群馬県	茂木　徹夫	群馬県再生資源事業協同組合連合会役員として、資源の再利用・再生利用に努め、業界発展に尽力すると共に循環型社会形成に貢献してきた。
個人	静岡県	河合　優	平成元年から三島市環境美化推進委員としてごみの分別指導や集積所の環境美化管理を率先して行うとともに、平成8年からは環境美化推進員会理事として他の環境美化推進委員の指導も積極的に実施している。
個人	福岡県	吉住　裕昭	筑後市環境衛生協議会の会員として地域での分別収集指導、ごみ減量化、不法投棄防止活動、環境美化活動を実施し、平成11年度からは環境衛生協議会会長として団体の先頭に立って尽力している。
個人	福岡県	川添　克子	長年にわたり（公社）福岡県産業廃棄物協会役員として、会員の資質向上、業界内外の啓発活動等を実施し、３Ｒ活動の推進に貢献している。

平成 25 年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	株式会社札幌ドーム	来場者との協働による紙コップなどのリサイクルや、天然芝サッカーグラウンドの芝ごみから砂を分別するなどして廃棄物を削減している。
企業	北海道	株式会社マテック	使用済自動車・古紙・OA 機器等の再利用および再生利用を長年にわたり実施するとともに、廃プラスチックや木くず、紙くず等からRPF 燃料を生産し、廃棄物の削減や省エネルギーに寄与している。
企業	岩手県	太平洋セメント株式会社大船渡工場	セメント資源化が困難な災害廃棄物を、水洗除塩し、さらに砂と土に分別するシステムを開発し、東日本大震災で発生した廃棄物の多量かつ適切な処理を進めている。
企業	栃木県	富士通株式会社小山工場	1997年のISO取得を機に、従業員の改善提案や取組の活性化により、ゼロエミッションを達成し、2011年度には有価物化率80%を達成した。
企業	群馬県	株式会社ＮＴＴ東日本－群馬	高崎市内の小中学校の給食の食べ残しから堆肥を製造し、その堆肥を使って栽培した野菜を学校給食に提供する事業や、不要となった大型家具を修理清掃し定期的に市民に提供する高崎市リユースセンター事業を、市の委託事業として実施している。
企業	神奈川県	生活クラブ生活協同組合（神奈川）	1993年に使い捨て容器をリユース容器へと切り替えたことを皮切りに、2001年からは牛乳びんのリユースも始め、「ごみを出さない暮らし方」を進めている。
企業	岐阜県	株式会社橋本	1973年の設立以来、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、資源物において、収集・運搬事業、中間処理事業を展開しているほか、2003 年からは食品リサイクルを目的とした食品廃棄物の運搬も開始するなど、地域における循環型社会推進のフロントランナーとして貢献している。
企業	大阪府	株式会社マルサン	1968年の設立以来、一般廃棄物、産業廃棄物の資源化、適正処理に尽力しているほか、2002年からは廃棄物のRPF化事業を開始し、製造業に代替燃料として供給するなど、廃棄物燃料化の技術開発を進めている。
企業	徳島県	オンダン農業協同組合	来場者との協働による紙コップなどのリサイクルや、天然芝サッカーグラウンドの芝ごみから砂を分別するなどして廃棄物を削減している。
企業	徳島県	四国化工機株式会社	使用済自動車・古紙・OA 機器等の再利用および再生利用を長年にわたり実施するとともに、廃プラスチックや木くず、紙くず等からRPF 燃料を生産し、廃棄物の削減や省エネルギーに寄与している。
団体	富山県	砺波市立庄川中学校	1984年から生徒会が校区の全世帯を対象に資源回収を実施するとともに、毎年6月には地域団体と共同でのごみ拾いを行っている。
団体	石川県	かほく市生活学校連絡会	段ボールコンポスト等の普及やごみ減量についての出前講座など、生活や地域のあり方を見直す活動を、女性の視点に立ち企業等と連携して長年取組んでいる。
団体	福井県	敦賀おもちゃ病院	長年にわたりおもちゃの病院を定期開催するとともに、他地域でのおもちゃの病院立上げやおもちゃ修理ドクター養成講座などを行っている。
団体	福井県	鯖江市連合婦人会	生ごみ減量化や牛乳パックのリサイクル活動等を長年にわたり実施するとともに、家庭ごみの削減に向けたアンケート調査・実証実験等を実施し、結果から意見提言を行うなど、地域に向けた幅広い啓発活動を行っている。
団体	静岡県	静岡県医師協同組合	医療機関から排出される廃棄物の適正処理、研修会の実施、医療機関と処理業者のコミュニケーション体制作りを進めている。
団体	愛知県	名古屋市保健委員会	多年にわたり地域のごみ排出指導・減量活動などを実施し、特に1999年の名古屋市の「ごみ非常事態宣言」以降は容器包装の分別方法の周知や指導を行うなど、地域における啓発活動の中心的役割を担っている。
団体	京都府	NPO法人エコネット丹後	使用済みてんぷら油の回収活動や、生成したバイオディーゼル燃料の地元農業での利用普及、森林で伐採された竹の堆肥化活動、川や海の美化活動などを行っている。
個人	福島県	室原泰二	法面緑化基盤材、汚泥発酵肥料の生産・販売を進める一方、リサイクル認定製品の事業者を構成員とするエコ・リサイクル認定事業者協会を設立し、会長として尽力している。
個人	群馬県	上岡克己	2004年より群馬県再生資源事業協同組合連合会会長として、また、上部の全国組織である日本再生資源事業協同組合連合会会長としてごみ減量等の啓蒙活動に尽力している。
個人	静岡県	土橋登巳代	市の環境学習指導員として地域の環境教育に貢献、さらに「ごみ減量やらまい会」のリーダーとして市のごみ減量啓発活動にも尽力している。
個人	鳥取県	長谷川武司	鳥取県認定グリーン商品普及促進協会会長、「とっとり環境ネットワーク」の4R推進グループコーディネーターなど、ごみ減量、リサイクル等の活動に貢献している。

平成 26 年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	生活協同組合コープさっぽろ	北海道を網羅する自社物流網の「戻り便」を活用し、家庭などから資源物を効率的に回収し、資源回収拠点として設置したエコセンターにおいて圧縮・減容処理を行い、再利用、販売を行っている。
企業	栃木県	ホンダエンジニアリング株式会社	研究開発で使用された化学物質の含まれる工業用水を再利用するための「工場排水のフル循環システム」を独自技術を駆使して構築するとともに、産業廃棄物のゼロエミッション活動を推進している。
企業	東京都	サントリー食品インターナショナル株式会社	植物由来原料を30%使用した独自開発の国産最軽量ペットボトルをミネラルウォーターに導入するとともに、国産最薄のロールラベルを導入し、省資源に取り組んでいる。
企業	東京都	株式会社ヤクルト本社	清涼飲料用の箱型紙容器として初めて「ノンアルミ紙容器」を導入し、リサイクル適性の向上及びCO_2排出量の削減を行うとともに、商品の集積包装に「段ボールシート」集積を導入し、廃棄される段ボールを大幅に削減している。
企業	京都府	株式会社鼓月	和菓子の製造工程で発生する小豆の皮等の残さや返品商品を飼料原料へリサイクルすることで、毎日180kg程度の廃棄食品の再資源化を達成している。
企業	和歌山県	紀南農業協同組合	梅干の製造工程で発生する調味廃液や残さの処理後に出る余剰汚泥と、独自に考案した脱塩装置によって処理された梅の種を樹皮と混合して堆肥化し、紀南農業協同組合の各支所で農家に土壌改良資材として販売することで、生産農家の圃場に還元され資源の循環を実現している。
企業	鳥取県	因幡環境整備株式会社	昭和41年の設立以来、地域の一般廃棄物の処理や水処理施設の維持管理を行いながら、近年では、地域の環境保全を前提とした循環型社会を構築すべく、食品リサイクル事業及び、容器包装プラスチックの再商品化事業を推進している。
企業	福岡県	トータルケア・システム株式会社	病院・介護施設や自治体から出される使用済紙おむつから、水溶化処理技術によってパルプを取り出し再資源化する、世界で唯一マテリアルリサイクルする事業を展開している。
団体	神奈川県	相武台南口商店会	地元小学校及びその生徒と商店会の役員で、座間市の花である「ひまわり」の茎を利用した和紙づくりや、種油によるバイオエネルギーの作成を行うとともに、ペットボトルや家庭廃食油のリサイクル等の様々な環境活動を行っている。
団体	富山県	高岡市立福岡小学校児童会	20年以上にわたり地域の商工会や老人施設、卒業生等を巻き込んだ資源回収活動を実施し、さらに、アルミ缶回収の収益金の寄付による老人施設等との交流や、地域のイベントの前後に清掃活動等を実施している。
団体	岐阜県	特定非営利活動法人エコ・テクル岐阜	医療廃棄物等を適正に管理するため、ＩＣタグを活用した「環境ガードシステム」を開発し、岐阜県、静岡県各医師会協同組合、京都府保健事業協同組合への導入及び運用を行うとともに、岐阜県内での産業廃棄物の不法投棄除去事業でも運用を行った。
団体	岐阜県	特定非営利活動法人ピープルズコミュニティ	岐阜県輪之内町から委託を受け、資源ごみの回収及び環境学習拠点であるエコドームの管理・運営、生ごみの収集運搬処理業務を10年以上実施し、一般家庭から排出される廃棄物のリサイクル及び環境教育を推進している。
団体	愛知県	とよたエコライフ倶楽部	市民・事業者・行政が協働でエコライフを推進するため、買物袋持参運動、家族ぐるみで環境行動に取り組む「エコファミリー制度」の推進、牛乳パックリサイクル商品の普及に取り組んでいる。
団体	鳥取県	鳥取県連合婦人会	昭和24年の設立以来、環境問題を活動テーマに掲げ、行政等と連携しながら、資源回収、清掃活動、生ごみコンポスト、廃油せっけん作り、マイバッグ運動の実践や各種研修会の開催等を実施している。
団体	福岡県	学校法人高見学園高見幼稚園	園児の年齢や体調に応じた給食を自園で調理・提供することにより残食を減らすとともに、調理体験、屋上菜園等の体験学習や、残食のたい肥化など、食育と環境活動を併せて実践している。
団体	福岡県	北九州市立井堀小学校	校内の環境委員会の児童を中心に、全校児童で給食牛乳パックを回収し、その回収量を掲示する「環境コーナー」の設置等リサイクルの意識付けを行っており、また通学路のごみを拾いながら登校する「井掘クリーン作戦」等を行っている。
個人	徳島県	津川　なち子	阿波踊りの期間中のごみ減量のために、平成17年から始めた「ごみゼロ阿波踊り大作戦」の実行委員長を長年務めるとともに、マイバッグの推進活動への参加、徳島県環境アドバイザーとして県内学校等への出前授業の実施等にも貢献している。

平成 27 年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	花本建設株式会社	平成８年に自然木の伐採木・伐根樹等をチップ化するプラントを設置し、チップ化した伐採木・伐根樹等を、家畜の敷材やミミズを活用した有機肥料にすることにより、産業廃棄物の排出ゼロに取組んでいる。
企業	北海道	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	平成12年より、自社工場内より排出される廃棄物について、受入・調合・充填・パッケージ等すべての工程及び事務所でリサイクルを進める「ゼロ・エミッション活動」に取組み、平成13年よりリサイクル100%を達成している。
企業	青森県	mizuiro株式会社	平成24年に野菜や果物等の残さを資源化し、それを原材料とした「おやさいクレヨン」の商品化に成功した。現在では、クレヨンだけでなく、自然素材でできた様々な商品を考案しており、残さの削減・リサイクルに努めている。
企業	岩手県	ニッコー・ファインメック株式会社	昭和55年の設立以来、金属回収や多品目の取扱ができる産業廃棄物処理業者として活動を続け、現在では、岩手県で初となる小型家電リサイクル法に基づく大臣認定を受けるなど、他事業者の規範となる活動を展開している。
企業	岩手県	産業振興株式会社釜石事業所	平成23年から、東日本大震災で発生したがれき中の金属くずを独自に考案した最適加工選別処理法により、処理量5.88万ｔの内99.1%を再資源化し、最終処分量の削減に取組んでいる。
企業	静岡県	富士宮清掃有限会社	昭和46年から市の家庭ごみや資源ごみの収集を行うとともに、古紙回収事業を通じて学校への環境教育・資源循環教育に役立てている。
企業	静岡県	株式会社藤枝農産加工所	平成22年からフルーツ缶詰等の製造工程で発生する高濃度シロップをバイオガス化し、燃料として有効利用することで、廃棄物の発生抑制や化石燃料使用量減少による温室効果ガス排出量を削減している。
企業	鳥取県	三光株式会社	昭和56年より、多品目の廃棄物の適正処理及びリサイクルを実施し、生ごみや下水道汚泥の堆肥化、廃棄物処理の際に発生するエネルギーを利用した発電を行う等、サーマルリサイクルに積極的に取組んでいる。
企業	岡山県	バイオディーゼル岡山株式会社	平成20年より、岡山市と協働により、一般家庭、飲食店、食品製造工場等より排出される廃食用油から高品質なＢＤＦを製造している。また、小学生等へ工場見学の機会を提供する等、環境教育を積極的に行っている。
企業	徳島県	日清紡ホールディングス株式会社 徳島事業所	当該事業所から排出される廃棄物の大半を占める動植物残さ（いちご葉）を自然乾燥させ、バイオマス燃料としてリサイクルを開始した。その結果、事業所内の廃棄物を99%以上リサイクルすることに成功している。
企業	福岡県	柴田産業株式会社	平成20年から小型家電の回収事業を開始するとともに、平成24年には産業用電子機器に含まれるタンタルのリサイクルについて、世界で初めて事業化に成功した。
企業	福岡県	医療法人 真鶴会小倉第一病院	病院食の食品残さから堆肥をつくる活動を平成８年から開始。農業を営む患者に、作った堆肥を配布し、それを用いて栽培した野菜を使って食事を提供するといった循環型社会を病院内で形成している。
企業	佐賀県	株式会社イワフチ	容器包装リサイクル法の施行以前よりペットボトルのリサイクルに取組んでいる。また、平成11年から福祉施設と連携して、施設利用者の積極的な雇用を推進するとともに、学校・団体等への工場見学受入れや環境出前講座を行っている。
企業	熊本県	株式会社日本リモナイト	平成13年に、下水処理施設等で発生する硫化水素の吸着剤の再生技術を確立した。本技術により、これまで埋め立て処分していた吸着剤を再生利用できるようになり、再生原料の確保とともに、資源の枯渇防止に貢献できるようになった。
団体	富山県	生活協同組合CO･OPとやま生ごみリサイクル研究会	平成５年から生ごみの減量化・リサイクルに関する研究を行い、堆肥化促進剤「ぼかし肥」を開発した。その他、環境教育・普及啓発に取組んでいる。
団体	静岡県	熱海女性連絡会	平成15年、熱海女性連絡会を中心にマイバック運動を展開し、その後、市と協働で可燃ごみ減少のための雑がみ回収事業を推進している。
団体	京都府	特定非営利活動法人ＫＥＳ環境機構	平成19年より、企業内で３Ｒを推進していくために立てるべき計画、環境マネジメントに係る相談に対し助言等を行い、廃棄物の排出をゼロにする循環型産業システムの構築に尽力している。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	福岡県	地球温暖化を考える北九州市民の会	平成９年から活動開始し、「楽しみながらできることを始めよう」を合言葉に、家庭のエネルギー利用、ごみの減量化等、我が家でできるCO_2削減運動に取組んでいる。
団体	鹿児島県	大崎町衛生自治会	平成10年より缶・びん・ペットボトルの分別収集に際し、ごみステーションでの立会活動などを通じて分別収集の向上を図るとともに、本活動による徹底した分別の取組の結果、処分場の大幅な延命化が図られた。また、環境情報誌の発行を行うことにより、普及啓発活動にも取組んでいる。
個人	広島県	小川　勲	平成13年度より現広島県資源循環協会理事に就任し、平成23年度には協会会長として、適正処理、不法投棄防止、３Ｒの推進に向けた同協会活動の主導的役割を果たしてきた。さらにＮＰＯ法人広島循環型社会推進機構副理事長等として各種リサイクル技術の開発等に貢献している。
個人	宮崎県	森末　富子	平成17年より、ごみを出さない暮らしを目指し、エコクッキングの実践、庭の雑草や枯れ木、果物の皮を使った堆肥づくりを進め、一般家庭の一日平均排出量の10分の１という減量に成功している。その活動が環境啓発紙等で取り上げられるとともに、県の環境保全アドバイザー等として環境学習の推進にも貢献している。

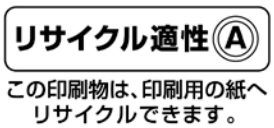
３Ｒ 活動先進事例集 2016

～平成 28 年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰受賞者の取組～

平成 29 年３月

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室
〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2
TEL 03-3581-3351　　FAX 03-3593-8262

この製品は、古紙パルプ配合率100％の再生紙を使用しています。このマークは、３Ｒ活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。



リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
　この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Ａランク]のみを用いて作製しています。